

県営住宅弥生団地 3 棟外壁屋根断熱改修工事

A - 00	図面リスト		
A - 01	改修工事特記仕様書 (1)	A - 16	建具キープラン (3 階・屋上)
A - 02	改修工事特記仕様書 (2)	A - 17	建具表
A - 03	改修工事特記仕様書 (3)	A - 18	自転車置場
A - 04	仕上げ表	A - 19	ゴミ置場
A - 05	附近見取図 配置図 工事概要	A - 20	断面詳細図 1
A - 06	1・2 階平面図	A - 21	断面詳細図 2
A - 07	3 階平面図 屋根伏図	A - 22	部分詳細図 1 (大屋根、補修部分)
A - 08	3 階吹抜部分平面図	A - 23	部分詳細図 2 (手摺 1 ～ 4、スロープ手摺)
A - 09	外壁劣化状況立面図、外壁劣化状況集計表		
A - 10	立面図 1 改修指示図		
A - 11	立面図 2 改修指示図		
A - 12	断面図		
A - 13	天井伏図 (1・2 階)		
A - 14	天井伏図 (3 階・屋上)		
A - 15	建具キープラン (1・2 階)		



県営住宅弥生団地 3 棟外壁屋根断熱改修工事			
図面リスト		縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室 一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一級建築士登録番号 第293658号	代表となる設計者	その他の設計者	A-00
	白石 博昭 一級建築士 登録番号 第354034号		

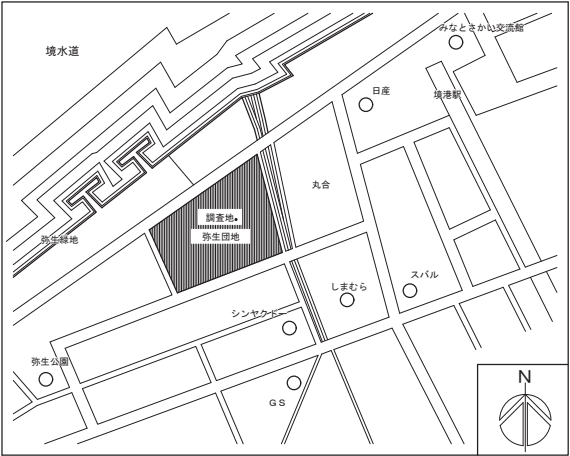
4 1 1	外壁改修工事（共通事項）	1	可とう性エポキシ樹脂 [4. 2. 4.]	品質性能等 比重：表示値±0.10、押出し性：60秒以下 スランプ：3mm以下、加熱減量：5%以下 引張強さ：・常温物性1.0N/㎠以上、低温性1.0N/㎠以上、加熱劣化1.0N/㎠以上 伸び：常温物性30%以上、低温性30%以上、加熱劣化30%以上 引張接着性 最大引張応力：常温物性1.0N/㎠以上 破断時の伸び：常温物性10%以上 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3) 常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。 試験方法 イ) 試験室の状態：温度23±2℃、湿度50±5%を標準状態とする。 ロ) 試験体個数：3個 ハ) 試験体の作り方：標準状態で試験室に保管した主剤及び硬化剤を、適切な容器に製造所の定める割合で採取し3分間十分に混練する。 ニ) 比重：JIS A 1439「建築用シーリング材の試験方法」の5.11 ホ) 押出し性：JIS A 1439の5.14（試験用カートリッジによる押出し試験） ヘ) スランプ：JIS A 1439の5.1 ト) 加熱減量及び試験 1. 試験器具 (1) 時計皿：2枚（直径75mm） (2) 恒温器：JIS K 6257「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム-熱老化特性の求め方」の4.3試験方法の表1に規定する促進老化試験A法のAA-2強制循環形態老化試験機（横風式）（ギヤ式-老化試験機ともいう。）又はこれに準じた装置。 (3) はかり：秤量200g、感量1mg 2. 試験方法 (1) 2枚の時計皿の質量（M0）を測定。 (2) 一方の時計皿に試料を直径約60mm、厚さ約2mmになるように塗りつけ、残りの時計皿でふたをして、直ちにその質量（M1）を測定。 (3) ふたを取り除いて、標準状態で14日間静置。 (4) 80±3℃に調節した恒温器中で330時間（14日間）加熱。 (5) 加熱後、恒温器から取り出し、標準状態で4時間静置し、再び残りの時計皿でふたをして、その質量（M2）を測定。 3. 加熱減量は、次の式によって計算し、平均値とする。 $L = \frac{M1 - M2}{M1 - M0} \times 100$ L：加熱減量（%） M0：2枚の時計皿の質量（mg） M1：加熱前の試料と2枚の時計皿の質量（mg） M2：加熱後の試料と2枚の時計皿の質量（mg） チ) 引張強さ：JIS K 6251「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム-引張特性の求め方」に準ずる1号ダンベルを用い、引張速度は200mm/minとする。 リ) 伸び：JIS K 6251に準ずる。1号ダンベルを用い、引張速度は200mm/minとする。 ヌ) 引張接着性：JIS A 1439の5.20 ル) 標準状態での試験：試験体を標準状態で14日間養生後、引張強さ、伸び、引張接着性を測定。 ヲ) 低温での試験：試験体を標準状態で14日間養生後、0±3℃に調節した恒温室に16時間保存後、恒温室内にて引張強さ、伸びを測定。 ワ) 加熱劣化試験：試験体を標準状態で14日間養生後、80±3℃に調節した恒温室内に14日間放置後、標準状態に戻して引張強さ、伸びを測定。	6	吸水調整材 [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による
		7	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 品質性能等 保水率：70%以上 単位容積質量：1.8kg/L以上 接着強さ：標準時 0.6N/mm ² 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上 長さ変化率：0.2%以下 曲げ強さ：4.0N/mm ² 以上 試験方法 イ) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算し、所定量の試料とする。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 ロ) 保水率 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径110mm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型枠く（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、イ) で調製した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型枠く上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが高さと認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100（注） 50：リング型枠くの内径 mm ハ) 単位容積質量 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 二) 標準時の接着強さ 1. 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm ² 以上） 2. 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「小口タイル100mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 ホ) 温冷繰返し後の接着強さ （試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ) 接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。 （温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で2時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって観る。 （温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm ² 以上） ヘ) 長さ変化率 ト) 曲げ強さ JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。	8	吸水調整材 [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による
		9	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 品質性能等 保水率：70%以上 単位容積質量：1.8kg/L以上 接着強さ：標準時 0.6N/mm ² 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上 長さ変化率：0.2%以下 曲げ強さ：4.0N/mm ² 以上 試験方法 イ) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算し、所定量の試料とする。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 ロ) 保水率 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径110mm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型枠く（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、イ) で調製した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型枠く上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが高さと認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100（注） 50：リング型枠くの内径 mm ハ) 単位容積質量 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 二) 標準時の接着強さ 1. 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm ² 以上） 2. 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「小口タイル100mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 ホ) 温冷繰返し後の接着強さ （試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ) 接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。 （温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で2時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって観る。 （温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm ² 以上） ヘ) 長さ変化率 ト) 曲げ強さ JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。	9	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による
		10	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 品質性能等 保水率：70%以上 単位容積質量：1.8kg/L以上 接着強さ：標準時 0.6N/mm ² 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上 長さ変化率：0.2%以下 曲げ強さ：4.0N/mm ² 以上 試験方法 イ) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算し、所定量の試料とする。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 ロ) 保水率 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径110mm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型枠く（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、イ) で調製した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型枠く上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが高さと認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100（注） 50：リング型枠くの内径 mm ハ) 単位容積質量 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 二) 標準時の接着強さ 1. 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm ² 以上） 2. 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「小口タイル100mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 ホ) 温冷繰返し後の接着強さ （試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ) 接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。 （温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で2時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって観る。 （温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm ² 以上） ヘ) 長さ変化率 ト) 曲げ強さ JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。	10	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による
4 2 2	外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）	1	ひび割れ部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4～7.]	※樹脂注入工法 工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎠） ※ A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※ 40 0.3以上0.5未満 ※ 40 0.5以上1.0未満 ※ 70 ・ B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※ 40 ・ C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※ 70 ・ D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※ 130 注入状況の確認方法 ※注入量により確認 コアの抜き取りを行う コア抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア抜き取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※1 成形分又は2 成形分ポリウレタン系 シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ※行わない ※可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※パテ状エポキシ樹脂 ※可とう性エポキシ樹脂	2	欠損部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※充填工法 欠損部充填材 ※ポリマーセメントモルタル ○エポキシ樹脂モルタル
		3	ひび割れ部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※樹脂注入工法 工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎠） ※ A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※ 40 0.3以上0.5未満 ※ 40 0.5以上1.0未満 ※ 70 ・ B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※ 40 ・ C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※ 70 ・ D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※ 130 注入状況の確認方法 ※注入量により確認 コアの抜き取りを行う コア抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア抜き取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※1 成形分又は2 成形分ポリウレタン系 シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ※行わない ※可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※パテ状エポキシ樹脂 ※可とう性エポキシ樹脂	4	欠損部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※充填工法 欠損部充填材 ※ポリマーセメントモルタル ○エポキシ樹脂モルタル
		5	ひび割れ部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※樹脂注入工法 工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎠） ※ A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※ 40 0.3以上0.5未満 ※ 40 0.5以上1.0未満 ※ 70 ・ B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※ 40 ・ C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※ 70 ・ D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※ 130 注入状況の確認方法 ※注入量により確認 コアの抜き取りを行う コア抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア抜き取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※1 成形分又は2 成形分ポリウレタン系 シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ※行わない ※可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※パテ状エポキシ樹脂 ※可とう性エポキシ樹脂	6	欠損部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※充填工法 欠損部充填材 ※ポリマーセメントモルタル ○エポキシ樹脂モルタル
		7	ひび割れ部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※樹脂注入工法 工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/㎠） ※ A 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 200～300 ※ 40 0.3以上0.5未満 ※ 40 0.5以上1.0未満 ※ 70 ・ B 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※ 40 ・ C 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※ 70 ・ D 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※ 130 注入状況の確認方法 ※注入量により確認 コアの抜き取りを行う コア抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 コア抜き取り部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※1 成形分又は2 成形分ポリウレタン系 シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ※行わない ※可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 ※パテ状エポキシ樹脂 ※可とう性エポキシ樹脂	8	欠損部改修工法 [4. 1. 4.] [4. 2. 4. 8.]	※充填工法 欠損部充填材 ※ポリマーセメントモルタル ○エポキシ樹脂モルタル
4 3 3	外壁改修工事（共通事項）	1	可とう性エポキシ樹脂 [4. 2. 4.]	品質性能等 比重：表示値±0.10、押出し性：60秒以下 スランプ：3mm以下、加熱減量：5%以下 引張強さ：・常温物性1.0N/㎠以上、低温性1.0N/㎠以上、加熱劣化1.0N/㎠以上 伸び：常温物性30%以上、低温性30%以上、加熱劣化30%以上 引張接着性 最大引張応力：常温物性1.0N/㎠以上 破断時の伸び：常温物性10%以上 1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3) 常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。 試験方法 イ) 試験室の状態：温度23±2℃、湿度50±5%を標準状態とする。 ロ) 試験体個数：3個 ハ) 試験体の調整：標準状態で試験室に保管した主剤及び硬化剤を製造所の定める割合で採取し、十分に攪拌する。 ニ) 外観：ハ) の試料を平滑なガラス板に均一に塗布し、均質性と異物の混入の有無を観察。 ホ) 圧縮強さ：JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.4により試験体を作成し、10.1(4)に規定する試験機で10.5により測定し、10.6により求める。 ヘ) 曲げ強さ：JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.4に準じ試験体を作成する。 10.1(5)に規定する試験機により、支点間100mmとし、供試体を成形したときの側面の中央に毎秒50 Nの割合で 載荷し最大荷重 P（N）を求め、P × 0.00234＝σ b の式で求める。 ト) 比重：曲げ試験機の方法と重量を測定して求める。 チ) 接着強さ：JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書 B（規定）及び推奨仕様 B-1に規定する普通平板の表面を清掃し、その上面に縦40mm、横40mmの鉄片を張り付けて単軸引張りを加える。最大荷重（P）を断面積（A）で除くを求める。 テ) だれ試験：JIS A 5371の 附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板の表面を清掃して、その上に厚さ30mm、幅100mm、長さ50mmの寸法にエポキシ樹脂モルタルを塗り付け、塗付け開始から5分後に、早らに置かれた平板を直角に立て起し、そのままの状態を静置する。24時間後のエポキシ樹脂モルタルの変形状態を観測し、その形状の異常の有無とだれ長さを測定する。	6	吸水調整材 [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による
		7	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 品質性能等 保水率：70%以上 単位容積質量：1.8kg/L以上 接着強さ：標準時 0.6N/mm ² 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上 長さ変化率：0.2%以下 曲げ強さ：4.0N/mm ² 以上 試験方法 イ) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算し、所定量の試料とする。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 ロ) 保水率 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径110mm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型枠く（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、イ) で調製した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型枠く上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが高さと認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100（注） 50：リング型枠くの内径 mm ハ) 単位容積質量 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 二) 標準時の接着強さ 1. 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm ² 以上） 2. 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「小口タイル100mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 ホ) 温冷繰返し後の接着強さ （試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ) 接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。 （温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で2時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって観る。 （温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm ² 以上） ヘ) 長さ変化率 ト) 曲げ強さ JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。	8	吸水調整材 [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による
		9	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 品質性能等 保水率：70%以上 単位容積質量：1.8kg/L以上 接着強さ：標準時 0.6N/mm ² 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm ² 以上 長さ変化率：0.2%以下 曲げ強さ：4.0N/mm ² 以上 試験方法 イ) 試料の調製 製造業者の定める、正味質量と標準繰り上がり量より換算し、所定量の試料とする。 練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちを用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。 ロ) 保水率 JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径110mm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型枠く（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、イ) で調製した試料を平滑に詰め込む。 その後、直ちにリング型枠く上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが高さと認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率＝50/平均値×100（注） 50：リング型枠くの内径 mm ハ) 単位容積質量 JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。 二) 標準時の接着強さ 1. 適用タイルが「モザイクタイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm ² 以上） 2. 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合 （試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちにイ) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（飽ゆう）「小口タイル100mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。 その後、28日間、温度20±2℃、湿度90%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。 （試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。 ホ) 温冷繰返し後の接着強さ （試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々ニ) 接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。 （温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。 試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で2時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返しした後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって観る。 （温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm ² 以上） ヘ) 長さ変化率 ト) 曲げ強さ JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。 JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。	9	既製調整モルタル [4. 3. 5.]	改修標準仕様書表4.3.2による

口外部仕上げ表			
部位	図面凡例	改修前仕様	改修後仕様
屋根		機瓦和型53A形 コンクリートの上バーライトモルタル t=40金ゴテ アスファルトルーフィング22kg、瓦枚 20×30、縦枚 5×51（防腐処理）	そのまま
陸屋根 平面部 立上り部		コンクリート金ゴテ、アスファルト露出防水（絶縁工法-2） アスファルト露出防水（絶縁工法-2）、防水端部押え金物 断熱材：なし	平面部下地：既存仕上面水洗いのうえ、 劣化部補修、アスファルト系下地調整材塗 平面部：改質アスファルトシート防水 常温粘着工法（AS1-J1）新設 立上り部：既存アスファルト防水撤去、防水端部押え金物撤去 下地調整のうえ 複層仕様（AS1-J1立ち上がり）新設、防水端部押え金物新設 断熱材（平面部のみ）：JIS A 9521 硬質ウレタンフォーム断熱材 t=50 2種1号または2号
陸屋根-窓木 屋上階-妻壁		コンクリート増打 t=20金ゴテ、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（アイカ工業：ジョリパット同等品）	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
バルコニー（下部居室有り） ・床仕上げ・側溝		塗膜防水：自閉性樹脂モルタル防水（大関化学：バラテックス C-3工法同等品） モルタル金ゴテ t=30 伸縮目地20×20	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（B・リマ-メンテナンス）のうえ ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法 伸縮目地：シーリング埋め
・窓木・立ち上がり		コンクリート増打 t=20金ゴテ、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（ジュラク）	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
バルコニー（下部居室なし） ・床仕上げ・側溝		コンクリート金ゴテ	バルコニー（下部居室有り）に準ずる
・窓木・立ち上がり		バルコニー下部居室有りに準ずる。	バルコニー（下部居室有り）に準ずる
兼型天端		塗膜防水：自閉性樹脂モルタル防水（大関化学：バラテックス A-2工法同等品-軽歩行用ノンスリップ） モルタル金ゴテt=30	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（B・リマ-メンテナンス）のうえ ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法
屋上階底庇		塗膜防水：自閉性樹脂モルタル防水（大関化学：バラテックス A-3工法同等品-歩行用ノンスリップ） モルタル金ゴテt=30	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（B・リマ-メンテナンス）のうえ ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法
軒裏（1階バルコニー裏）		合板型枠コンクリート打放し	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 外装薄塗材E ローラー仕上（ゆず肌）
軒裏（2階・3階） 底、梁型表面、花台裏面		合板型枠コンクリート打放し、アクリルリシン吹付（外装薄塗材E）	軒裏（1階バルコニー裏）に準ずる
外壁		合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 柱型・梁型：弾性ロック 一般壁：ジュラク	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 〔既存の仕上形状に合わせること〕（一部爆裂箇所あり平面図参照）
腰壁（基礎立上り）		打設型枠コンクリート打放し t=40（増打）	既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ ポリマーセメントモルタル塗り（C-2）
階段ホール		路面：防水モルタル木ゴテ ノンスリップ：磁器質段鼻タイル 150×66×16 蹴上：防水モルタル金ゴテ 壁：合板型枠コンクリート打放し アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（アイカ工業：ジョリパット同等品）（施工場所：平面図参照） 天井：軽鉄下地、フレキシブルボード t=6 目隠し張り、アクリルリシン吹付（施工場所：天井伏図参照）	そのまま そのまま そのまま 既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材（一部爆裂箇所あり平面図参照） 既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 外装薄塗材E ローラー仕上（ゆず肌）
共同物入		床：コンクリート金ゴテ 壁：合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 天井：断熱材ア30（打込）	そのまま
専用庫		ぬれ縁：杉 60×45、根太 75×75、CCA処理済 床：クラッシャーラン C-40 t=100、豆砂利洗い出しコンクリート平板 300×300 t=40	そのまま
屋内自転車置場		床：コンクリート金ゴテ 壁：合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 天井：合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付	そのまま
戸外収納		床：コンクリート金ゴテ 壁：合板型枠コンクリート打放し 天井：断熱材 t=30（打込）	そのまま
1階共用廊下		床：クラッシャーラン C-40 t=100 豆砂利洗い出しコンクリート平板（一部コンクリート平板）300×300×40	そのまま
道具		アルミサッシ：B.L認定商品、アルマイト仕上 見込70 スチール：B.L認定商品、O.P仕上 見込80	アルミサッシ自体はそのまま 既存シーリング撤去後、シーリング打替え
躯体打ち継ぎ目地		PS-2（ポリサルファイド系）	既存シーリング撤去後、シーリング打替え PU-2（ポリウレタン系）
階段手摺		ステンレスパイプ SUS304（フッ素樹脂）仕上、形状は図示 手摺：42.7? 手摺子：12.0?	そのまま
バルコニー手摺		ステンレスパイプ SUS304（フッ素樹脂塗）仕上、形状は図示	ケレン（R6種） 下地調整材塗（広範囲適用型弱溶剤特殊エポキシシーラー） 錆止めの塗料 上塗り塗料（フッ素樹脂塗）
バルコニー仕切板		枠：L-40×40×3 O.P仕上 板：無石綿板 t=5.0	そのまま
自転車置場		屋根：機瓦和型53A形 アスファルトルーフィング22kg 野地板：構造用合板 t=15（防腐処理）、瓦枚 20×30、縦枚 5×50（防腐処理） 床：豆砂利洗い出しコンクリート平板（一部コンクリート平板）300×300×40、クラッシャーラン C-40 t=100 天井：小屋組現し（野地板、化粧材（野地板・檜木・母屋・梁桁・垂木・火打・雲筋交い） 壁：（内外共）CB150積み、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付仕上 外側・梁型：弾性ロック、内側：ジュラク	そのまま 既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
ゴミ置場		屋根・野地板・天井：自転車置場に準ずる 床：コンクリート金ゴテ直均し 壁：自転車置場に準ずる	そのまま 既存仕上面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
断熱材		押出発泡ポリスチレン8種2種 屋根：40mm バルコニー下の居室屋根断熱及びPS、CB部：硬質ウレタンフォーム現場発泡（難燃性）：20mm	そのまま

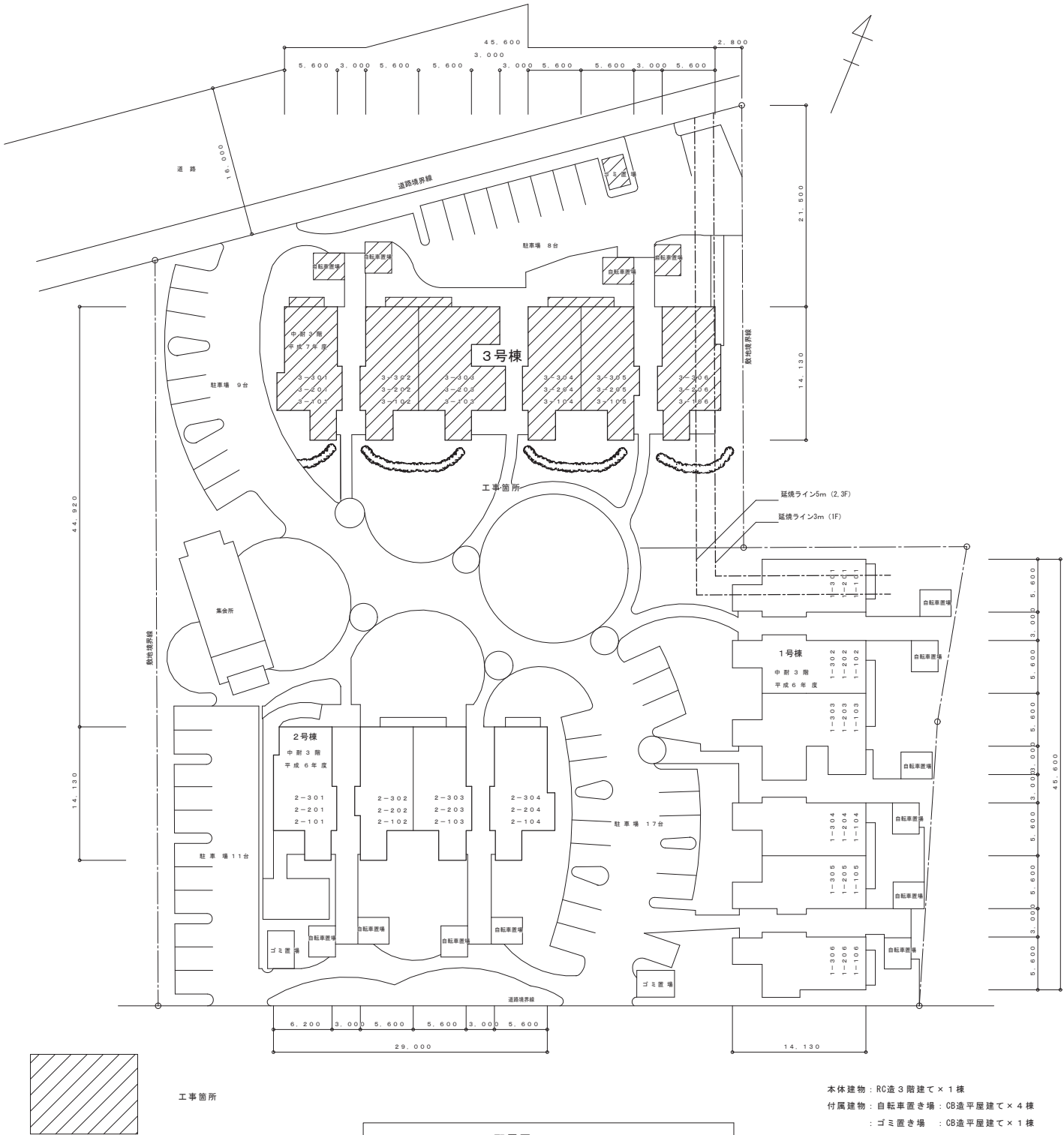
部品仕様			
		改修前	改修後
部品名	取付場所		
仕様標示	外壁	別図による	そのまま
ルーフドレーン	陸屋根	鉄鉄製 75A（塗膜防水用、アスファルト防水用・打込型）	鉄鉄製ルーフドレン75φ用 〔既設のまま〕 鉄鉄製ドレンキャップ【撤去】 改修用ドレン75φ用・ドレンキャップ【新設】
雨水竖樋	外壁	塩ビ管 75A（カラーパイプ） 減受金物：ステンレス製 #1500	そのまま
軒樋・集水器	瓦屋根軒先	半丸105（カラー） 受け金具：正面打タイプ ステンレス製 #500	そのまま
中継ドレーン	バルコニー	鉄鉄製 75A（塗膜防水用・打込型）	既存のまま鉄鉄製75φ 耐候性塗料塗（DP塗-R8種）
手摺 1～4	バルコニー	コンクリート：アクリル共重合樹脂水性仕上位材吹付 ステンレスパイプ SUS304 フッ素樹脂仕上げ 図示による	コンクリート：外部仕上げ表のバルコニー立上りに準ずる ステンレスパイプ：外部仕上げ表のバルコニー手摺に準ずる
手摺 1		コンクリート部分H1210、パイプ部分：H190	
手摺 2		コンクリート部分H 290、パイプ部分：H1110（R120）	
手摺 3		コンクリート部分H530、パイプ部分：H870	
手摺 4		コンクリート部分H1210、パイプ部分：H190（R120）	
物干金物	バルコニー軒裏（2F）	可動アルミダイキャスト（軒天取付）図示による	そのまま
	バルコニー手摺り（2F・3F）	可動アルミダイキャスト（手すり付）図示による	そのまま
スロープ手摺		コンクリート・ステンレスパイプ：手摺1～4に準ずる	コンクリート：外部仕上げ表のバルコニー立上りに準ずる ステンレスパイプ：外部仕上げ表のバルコニー手摺に準ずる
内側手摺	3棟-Eタイプ外部スロープ	コンクリート部分H120～520、パイプ部分：H730	
外側手摺	3棟-Eタイプ外部スロープ	コンクリート部分H610～930、パイプ部分：H120	



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
仕上げ表		縮尺 1/100	図面番号 A-04
株式会社 しらいし設計室 一般建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293658号	代表となる設計者	その他の設計者	
		一般建築士 登録番号 第354034号	



付近見取図



【改修工事仕様概要】

- ・本工事に於いて、公的機関等で事前協議、各種届出手続きが必要な場合は、全て、受注者の責任に於いて行うこと
- ・工事車両の通行に際しては、事故防止に十分注意すること
- ・クレーン車両の使用時は、車両附近に交通誘導員を配置し、通行者及び利用者、周辺建築物、周辺工作物等の事故防止に十分注意すること
- ・本工事に伴い、敷地内道路、周辺建物、周辺工作物等に被害、損傷等を与えた場合は、すみやかに監督員に報告すると共に、該員責者の責任に於いて復旧すること
- ・本工事に於いて使用する建設機械(クレーン車両、発動機電機含む)は、排出ガス対策型建設機械を使用し、かつ、低騒音型、低振動型を使用すること
- ・本工事に解体撤去作業のホコリ対策についても、頻繁に清掃するなど、塵埃が起きないように十分配慮すること
- ・本工事に伴う不燃物、可燃物及び再生可能物等は、別々に分類し、処分すると共に産業廃棄物処理に関する法律を遵守すること
- ・本工事で搬去された搬出物が、敷地内、道路内等に落下することのないよう、運搬車両に落下防止措置を行うこと
- ・本工事は、高所での工事作業が主であるため、落下物で人身事故、損傷事故がないよう十分注意すること。また、作業道具等、落下防止措置を行うこと
- ・また、住人が居住しながらの工事となるため、安全面等を配慮し、使用上迷惑の掛らないよう施工を行うこと
- ・外部足場設置について、樹木等で支障となる部分がある場合は、監督員と協議を行うこと(軽微な枝払い程度で対応)
- ・付属倉庫・駐輪場について、改修工事期間中、外部足場の設置により利用不可となる箇所につき、使用者に説明し理解を得るよう努めること

【特記事項】

- ・施工に先立ち、事前調査(目視・打診等)を実施し、報告書及び施工計画書を作成後監督員と協議を行い、承認を得て施工すること
- ・事前調査範囲は、設計図書を基に、監督員と協議し確認すること

【改修工事概要】

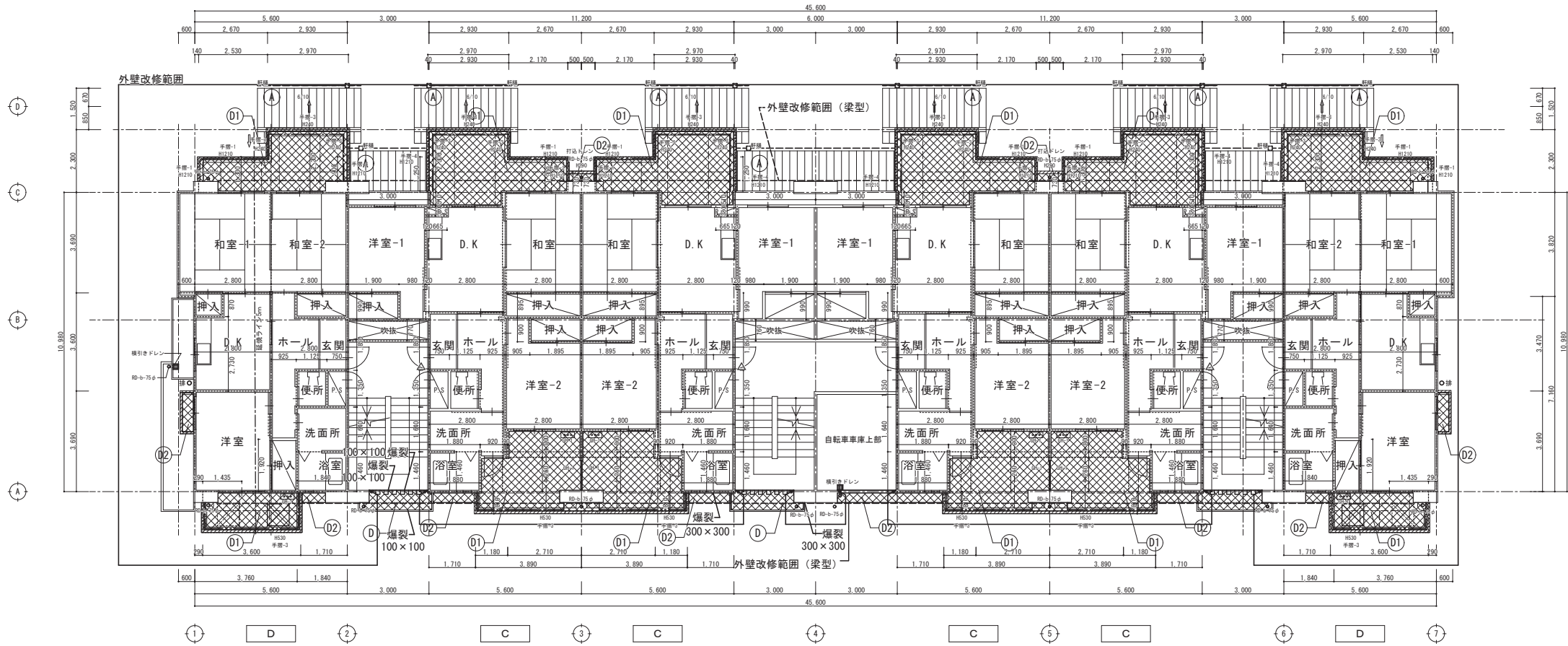
本体建物(3号棟) 自転車置き場(4棟)	大屋根改修(陸屋根)	・既設アスファルト露出防水の上、改質アスファルトシート防水(断熱材t=50)を新設する。 ・笠木は外壁仕上げに準ずる。
	外壁改修	＜劣化部の補修＞ ・既存塗膜除去等(劣化部周囲) : 水洗い、下地調整 C-1(セメント系) ・亀裂部(0.2mm以上1.0mm未満) : 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・コンクリート欠損部(露筋部) : エポキシ樹脂モルタル充填工法(鉄筋露出部は、清掃、防錆処理) ＜仕上＞ ・外 壁 : 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用塗材 ・軒天井 : 外装薄塗材E ローラー仕上 ・防 水 : 躯体打継目地、化粧目地、外部建具周囲(玄関・収納扉除く)シーリング打替え
	バルコニー床改修	・バルコニー床面は、既設コンクリートコテ押さえの上、ウレタン塗膜防水(防汚仕上)を新設する ・既設中継ルーフドレンに塗装改修を施す
ゴミ置き場(1棟) 自転車置き場(4棟)	外壁改修	＜劣化部の補修＞ ・既存塗膜除去等(劣化部周囲) : 水洗い、下地調整 C-1(セメント系) ・亀裂部(0.2mm以上1.0mm未満) : 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ・コンクリート欠損部(露筋部) : エポキシ樹脂モルタル充填工法(鉄筋露出部は、清掃、防錆処理) ＜仕上＞ ・外 壁 : 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用塗材

【外壁改修特記事項】

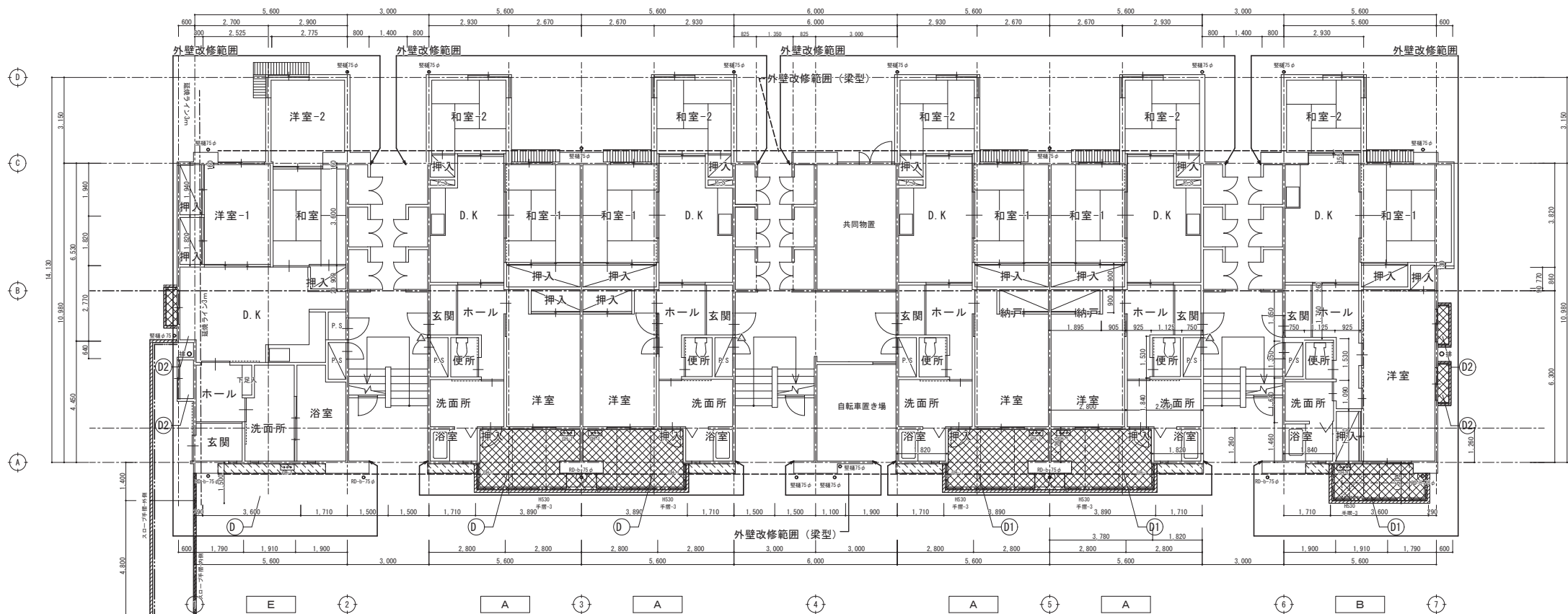
- ・外壁・軒天の仕上げについては、事前調査の結果、アスベスト含有材(石綿含有仕上げ塗材)なし



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
付近見取図、配置図、工事概要		縮尺 1/300	図面番号
株式会社 しらいし設計室 一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博司 一級建築士登録番号 第293658号	代表となる設計者	その他の設計者	A-05
	白石 博司 一級建築士 登録番号 第354034号		



2階平面図 S=1:100



1階平面図 S=1:100

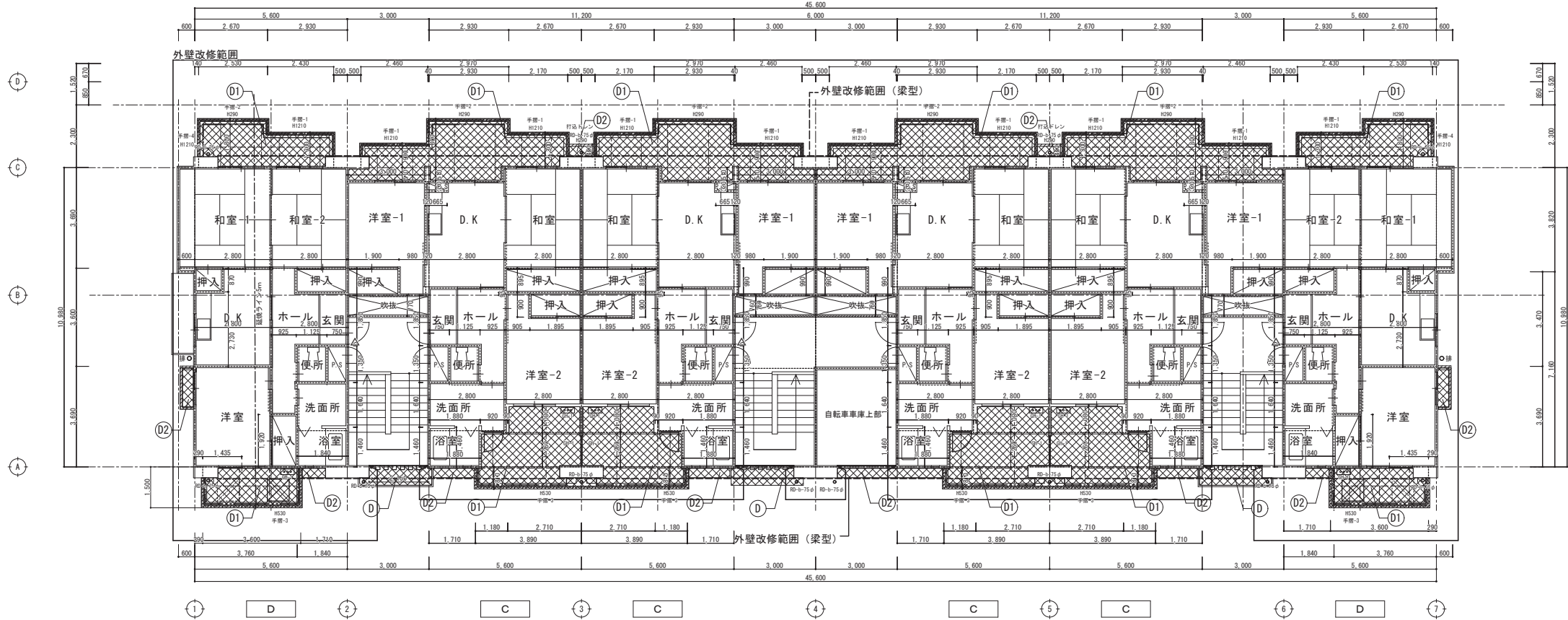
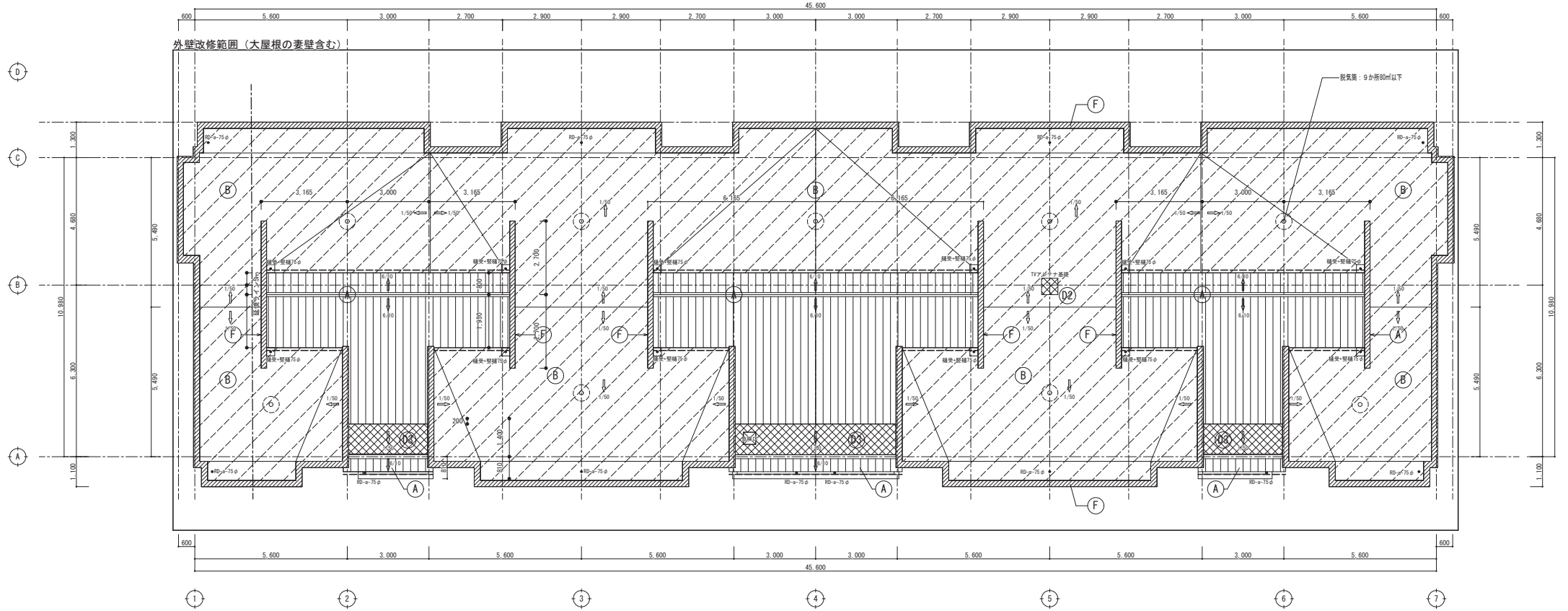
- 凡 例
- バルコニー床：防水モルタル金ゴテ（既設のまま）
 - ケレン・清掃 下地調整のうえ
 - ウレタン塗膜防水(X-2)密着工法・防滑仕上【新設】
 - 基礎（根廻り）：コンクリート打ち放し（既設のまま）
 - ケレン・清掃 下地調整のうえ
 - 劣化部補修後水洗い ポリマーセメントモルタル塗（C-2）【新設】
 - アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（既設のまま）
 - ケレン・清掃 下地調整のうえ
 - ウレタン塗膜防水(X-2)密着工法・防滑仕上【新設】

No.	改修前	改修後
A	瓦葺き	そのまま
B	アスファルト露出防水	改質アスファルトシート防水（断熱材50）
D	防水コンクリート	
D1	塗膜防水コンクリート金コテ（C-3工法）同等品	ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法
D2	塗膜防水（A-2工法）同等品	
D3	塗膜防水（A-3工法）同等品	
F	アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付ジョリパッド同等品	特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
RD-a	ルーフドレンφ75	鋳鉄製ルーフドレン75φ用【既設のまま】 鋳鉄製ドレンキャップ【撤去】 改修用ドレン75φ用【新設】 改修用ドレンキャップ【新設】
RD-b	中継ドレンφ75	既存のまま鋳鉄製75φ耐候性塗料塗（DP塗-RB種）
■	横引きドレン	横引きドレン【撤去】 改修用ドレン75φ用【新設】
△	消火器	そのまま
-D-	軒樋+集水器	そのまま
○	竖樋	そのまま
○排	排水管	そのまま
—	手すりステンレスパイプ フッ素樹脂仕上げ	耐候性塗料（DP）フッ素樹脂仕上げ（RB種）
---	収縮目地20×20	シーリングにて目地埋め

1階平面図 S=1:100

鳥取県
令和8年度
J2600080
西部環境建築局

県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
1・2階平面図		縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室		代表となる設計者	A-06
一級建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1279号 管理建築士 白石 博樹 一級建築士登録番号 第293659号		その他の設計者 白石 博樹 一級建築士 登録番号 第354034号	



- 凡 例
- バルコニー床：防水モルタル金ゴテ（既設のまま）
 - ケレン・清掃 下地調整のうえ
 - ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法・防滑仕上【新設】
 - 基礎（根廻り）：コンクリート打ち放し（既設のまま）
 - ケレン・清掃 下地調整のうえ
 - 劣化部補修後水洗い ポリマーセメントモルタル塗（C-2）【新設】
 - アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（既設のまま）
 - ケレン・清掃 下地調整のうえ
 - ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法・防滑仕上【新設】

No.	改修前	改修後
A	瓦葺き	そのまま
B	アスファルト露出防水	改質アスファルトシート防水（断熱材50）
D	防水コンクリート	
D1	塗膜防水コンクリート金コテ（C-3工法）同等品	ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法
D2	塗膜防水（A-2工法）同等品	
D3	塗膜防水（A-3工法）同等品	
F	アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 ジョリパッド同等品	特殊セラミックシリコン樹脂系 塗り替え用仕上塗材
RD-a	ルーフドレンφ75	
RD-b	中継ドレンφ75	
■	横引きドレン	耐候性塗料塗（DP塗-RB種） 横引きドレン【撤去】 改修用ドレン75φ用【新設】
△	消火器	そのまま
-D-	軒樋+集水器	そのまま
○	堅樋	そのまま
○排	排水管	そのまま
—	手すりステンレスパイプ フッ素樹脂仕上げ（RB種）	耐候性塗料（DP）フッ素樹脂仕上げ（RB種）
---	収縮目地20×20	シーリングにて目地埋め

3階平面図 S=1:100

鳥取県
令和8年度
J2600080
西部環境建築局

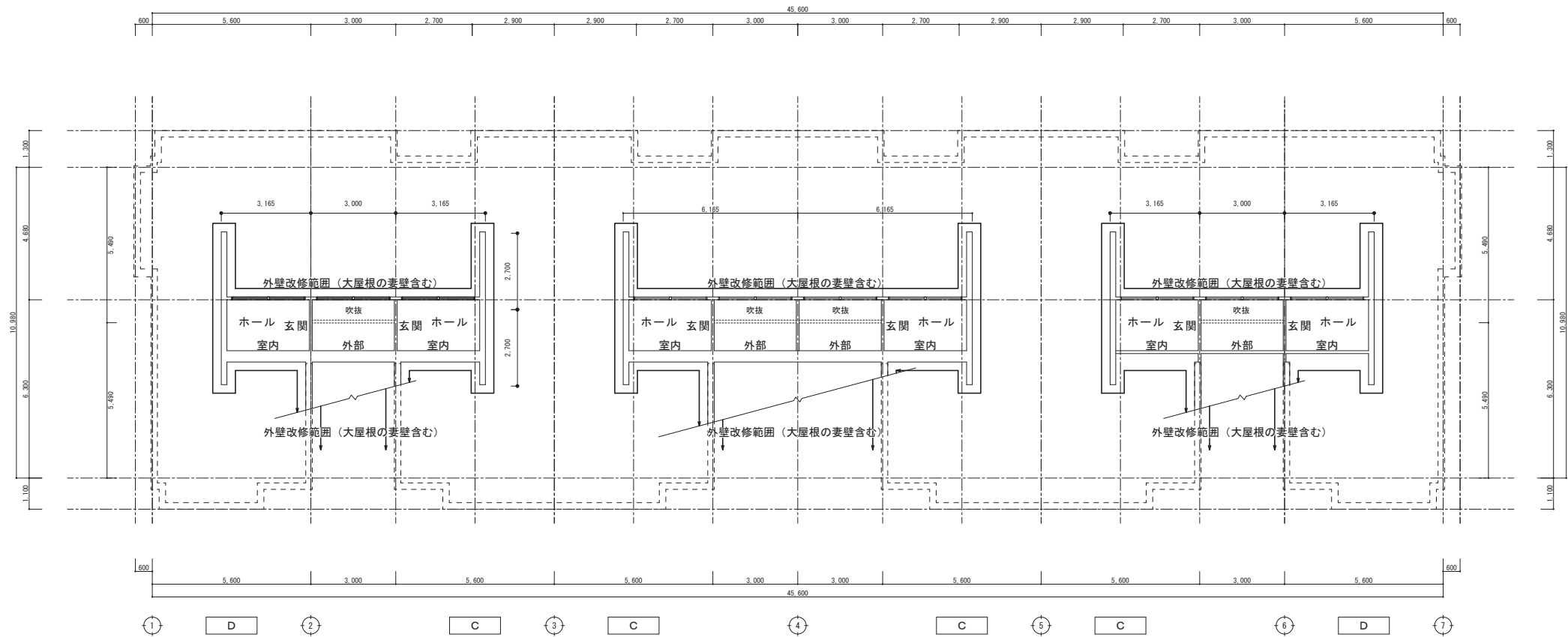
県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事		
3階平面図 屋根伏図	縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室	代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1279号 管理建築士 白石 博樹 一般建築士登録番号 第293658号	白石 博樹 一般建築士 登録番号 第354034号	

D

C

B

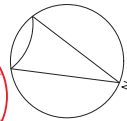
A



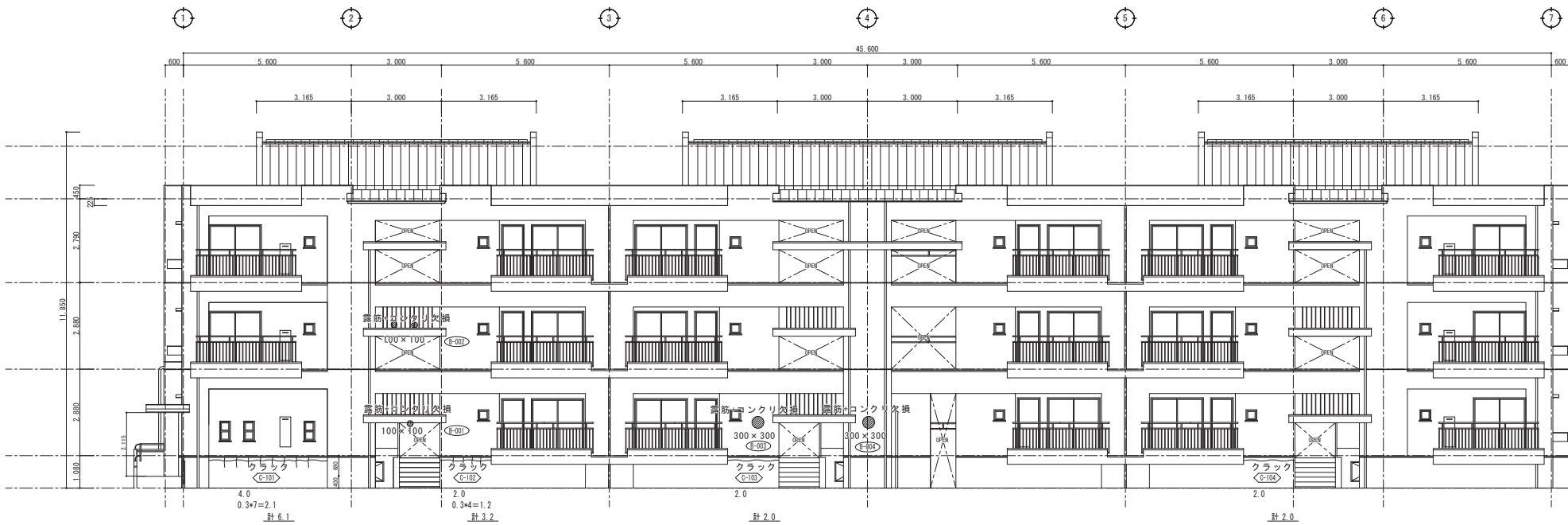
No.	改修前	改修後
A	瓦葺き	そのまま
B	アスファルト露出防水	改質アスファルトシート防水（断熱材50）
D	防水コンクリート	ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法
D1	塗膜防水コンクリート金コテ（C-3工法）同等品	
D2	塗膜防水（A-2工法）同等品	
D3	塗膜防水（A-3工法）同等品	
F	アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付ジョリパッド同等品	特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
RD-a	ルーフドレンφ75	鋳鉄製ルーフドレン75φ用【既設のまま】 鋳鉄製ドレンキャップ【撤去】 改修用ドレン75φ用【新設】 改修用ドレンキャップ【新設】
RD-b	中継ドレンφ75	既存のまま鋳鉄製75φ 耐候性塗料塗（DP塗-RB種）
■	横引きドレン	横引きドレン【撤去】 改修用ドレン75φ用【新設】
△	消火器	そのまま
-□-	軒樋+集水器	そのまま
○	竖樋	そのまま
○排	排水管	そのまま
——	手すりステンレスパイプ フッ素樹脂仕上げ	耐候性塗料（DP）フッ素樹脂仕上げ（RB種）
---	収縮目地20×20	シーリングにて目地埋め

3階吹抜部分平面図 S=1：100

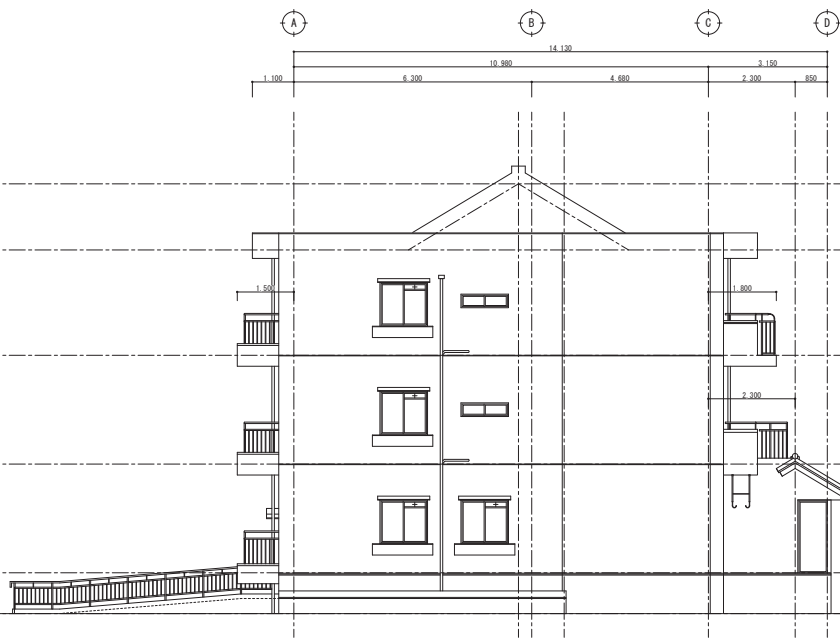
鳥取県
令和8年度
J2600080
西部環境建築局



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
3階吹抜部分 平面図		縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室 一般建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293658号	代表となる設計者	その他の設計者	A-08
	白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号		



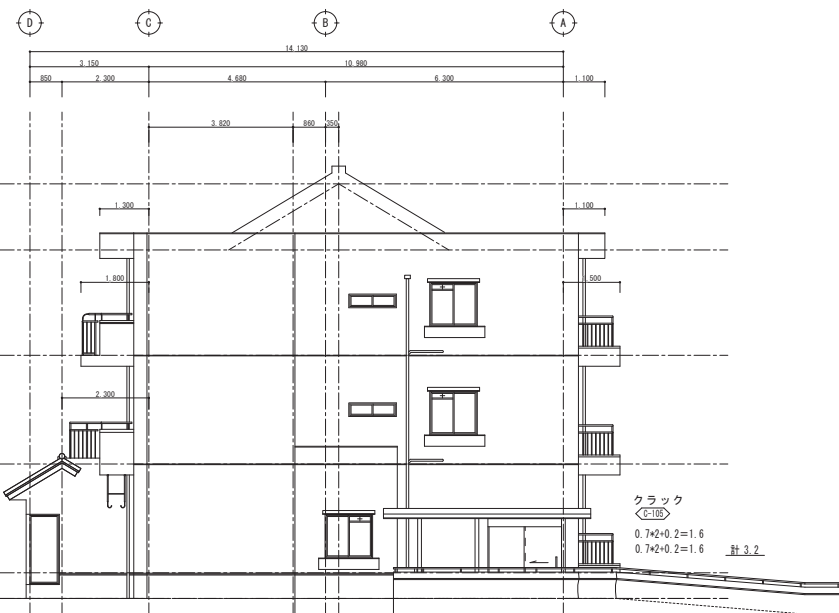
北側 立面図 S=1/100
道路側（海側）



西側 立面図 S=1/100
集合所側



南側 立面図 S=1/100
中庭側



東側 立面図 S=1/100
隣地側

外壁劣化状況 集計表

外壁クラック					鉄筋露出（腐蝕）・コンクリ欠損										モルタル浮き（外壁）（001番～）			モルタル浮き（基礎部）（101番～）		
記号	クラック長さ（m）			クラック長さ（m）		外壁・軒裏等 リシン吹付部（001番～）				基礎巾木部（101番～）				記号	Ⅸ×Ⅸ×箇所数	計（㎡）	記号	Ⅸ×Ⅸ×箇所数	計（㎡）	
	幅 0.2以上0.3未満	幅 0.3以上0.5未満		幅 0.2以上0.3未満	幅 0.3以上0.5未満	記号	Ⅸ×Ⅸ×箇所数	計（㎡）	記号	Ⅸ×Ⅸ×箇所数	計（㎡）									
			C-101	6.10		B-001	○ 0.1×0.1×1ヶ所	0.01												
			C-102	3.20		B-002	○ 0.1×0.1×1ヶ所	0.01												
			C-103	2.00		B-003	● 0.3×0.3×1ヶ所	0.09												
			C-104	2.00		B-004	● 0.3×0.3×1ヶ所	0.09												
			C-105	3.20				計	0.20											
合計（㎡）			合計（㎡）	16.50			○ 0.1×0.1程度：2ヶ所 ● 0.3×0.3程度：2ヶ所	● 0.2×0.2程度：0ヶ所			合計（㎡）	0.20		合計（㎡）			合計（㎡）			

凡 例		記号
クラック（外壁）（001番～）	C-001	
クラック（基礎）（101番～）	C-101	
鉄筋露出（腐蝕）・コンクリ欠損	B-001	
外壁・軒裏等 リシン吹付部（001番～）	B-001	
鉄筋露出（腐蝕）・コンクリ欠損	B-101	
基礎巾木部（101番～）	B-101	

鳥取県
令和8年度
J2600080
西部環境建築局

県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事

外壁劣化状況立面図、劣化状況集計表

縮尺 1/100

図面番号

株式会社 しらいし設計室

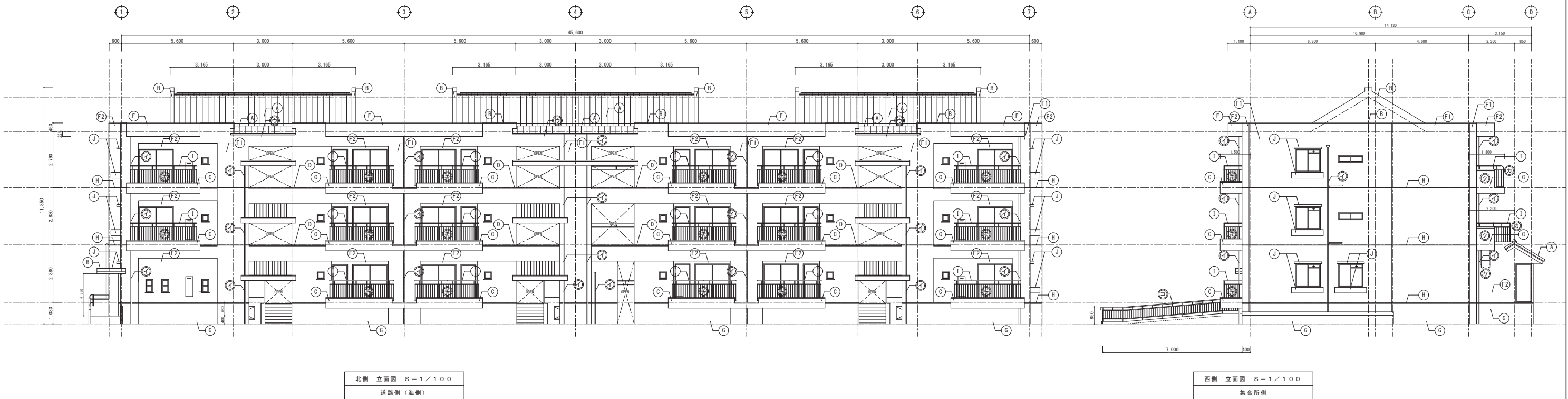
代表となる設計者

その他の設計者

A-09

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号
白石 博樹
管理建築士
一級建築士登録番号 第293659号

白石 博樹
一級建築士
登録番号 第354034号



口外部位仕上表			
No.	部位	改修前仕様	改修後仕様
Ⓐ	屋根	桃瓦和型53A形 コンクリートの上パーライトモルタル t=40金ゴテ アスファルトルーフィング22kg、瓦棟 20×30、縦棟 5×51（防塵処理）	そのまま
Ⓑ	陸屋根-壁木 屋上雨-塗装	コンクリート増打 t=20金ゴテ、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（アイカ工業：ジョリパット同等品） ジュラク	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓒ	バルコニー ・壁木・立ち上がり	コンクリート増打 t=20金ゴテ、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付（ジュラク）	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓓ	窓廻天端	塗膜防水：自閉性樹脂モルタル防水（大関化学：パラテックス A-2工法同等品-軽歩行用ノンスリップ） モルタル金ゴテt=30	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（※「リペアメント」系）のうえ ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法
Ⓔ	屋上庇	合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 ジュラク	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 （既存の仕上形状に合わせる）
Ⓕ	外壁	合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 柱型・梁型・1/7通り外壁：弾性ロック	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 （既存の仕上形状に合わせる）
Ⓖ	雨樋（基礎立上り）	打設型枠コンクリート打放し t=40（増打）	（既存の仕上形状に合わせる）（一部燻製箇所あり平面図参照） 既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ ポリマーセメントモルタル塗り（C-2）
Ⓗ	躯体打ち継ぎ目地	PS-2（ポリサルファイド系）	既存撤去の上、打ち替え：PU-2（ポリウレタン系）
Ⓘ	バルコニー手摺	ステンレスパイプ SUS304（フッ素樹脂塗）仕上	ケレン（RB種） 下地調整材塗（広範囲適用型弱溶剤特殊エポキシシーラー） 錆止め塗料 上塗り塗料（フッ素樹脂塗）
Ⓙ	庇、花台	合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 ジュラク	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 （既存の仕上形状に合わせる）
	道具	アルミサッシ：B.L認定商品、アルマイト仕上 見込70 スチール：B.L認定商品、O.P仕上 見込80	上塗り塗料（フッ素樹脂塗） アルミサッシ自体はそのまま 既存シーリング撤去後、シーリング打ち替え

部品仕様			
		改修前	改修後
部品名	取付場所		
Ⓐ 仕様指示	外壁	樹脂製360×360	そのまま
Ⓔ 雨水樋種	外壁	塩ビ管 75A（カラーパイプ） 継受金物：ステンレス製 #1500	そのまま
Ⓕ 軒樋・集水器	瓦屋根軒先	半丸105（カラー） 受け金具：正面打タイプ ステンレス製#500	そのまま
Ⓖ 中継ドレーン →平面図による	バルコニー	鉄鉄製 75A（差込防水用→打込型）	
手摺 1～4	バルコニー	コンクリート：アクリル共重合樹脂水性仕上位材吹付 ステンレスパイプ SUS304 フッ素樹脂仕上げ 図示による	コンクリート 既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓐ 手摺 1		コンクリート部分H1210、パイプ部分：H190	ステンレスパイプ ケレン（RB種） 下地調整材塗（広範囲適用型弱溶剤特殊エポキシシーラー） 錆止め塗料 上塗り塗料（フッ素樹脂塗）
Ⓐ 手摺 2		コンクリート部分H 290、パイプ部分：H1110（R120）	
Ⓐ 手摺 3		コンクリート部分H530、パイプ部分：H870	
Ⓐ 手摺 4		コンクリート部分H1210、パイプ部分：H190（R120）	
Ⓖ 物干金物	バルコニー軒裏（2F）	可動アルミダイキャスト（軒天取付）図示による	そのまま
Ⓖ 内側手摺	3棟-Eタイプ外部スロープ	コンクリート部分H120～520、パイプ部分：H730	コンクリート：手摺1～4のコンクリートに準ずる ステンレスパイプ：手摺1～4に準ずる
Ⓖ 外側手摺	3棟-Eタイプ外部スロープ	コンクリート部分H610～930、パイプ部分：H120	
Ⓖ エアコン室外機	外壁周囲		既設エアコン室外機 【再取付】（448台）



県営住宅弥生団地 1 棟外壁屋根断熱改修工事			
立面図 1（北側・西側）改修指示図		縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室 一般建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293659号	代表となる設計者	その他の設計者	A-10
	白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号		



南側 立面図 S=1/100
中庭側

東側 立面図 S=1/100
階地側

口外部位仕様表

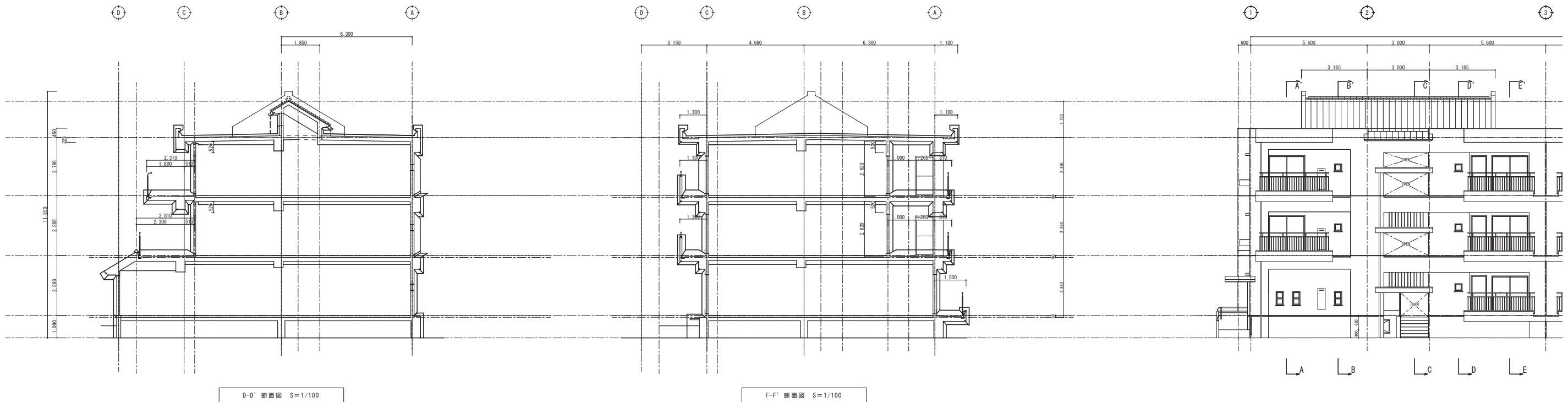
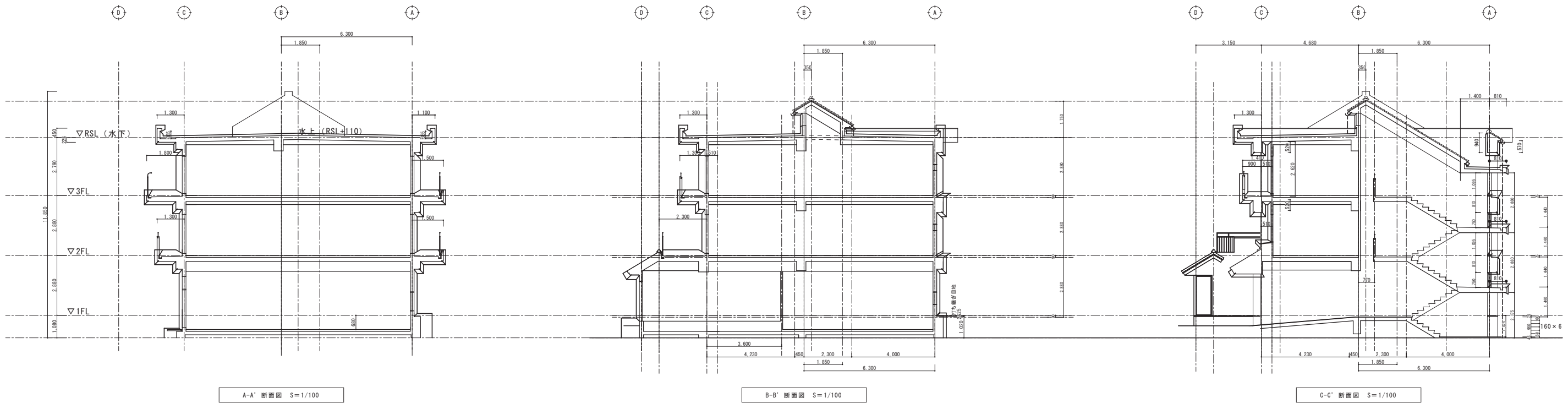
No.	部位	改修前仕様	改修後仕様
Ⓐ	屋根	桃瓦和型53A形 コンクリートの上パーライトモルタル t=40金ゴテ アスファルトルーフィング22kg、瓦 20×30、縦杭 5×51 (防塵処理)	そのまま
Ⓑ	陸屋根・壁木 屋上雨・塗装	コンクリート増打 t=20金ゴテ、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 (アイカ工業：ジョリパット同等品) ジュラック	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓒ	バルコニー ・壁木・立ち上がり	コンクリート増打 t=20金ゴテ、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 (ジュラック)	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓓ	窓廻天端	塗膜防水：自閉性樹脂モルタル防水 (大関化学：バラテックス A-2工法同等品・軽歩行用ノンスリップ) モルタル金ゴテt=30	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (B'リターメントペ-ル塗) のうえ ウレタン塗膜防水 (X-2) 密着工法
Ⓔ	屋上庇	合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 ジュラック	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 (既存の仕上形状に合わせる)
Ⓕ	外壁	合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 柱型・梁型・1/7通り外壁：弾性ロック	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓖ	基礎 (基礎立上り)	打設型枠コンクリート打放し t=40 (増打)	(既存の仕上形状に合わせる) (一部燻製箇所あり平面図参照) 既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ ポリマーセメントモルタル塗り (C-2)
Ⓖ	躯体打ち継ぎ目地	PS-2 (ポリサルファイド系)	既存撤去の上、打ち替え：PU-2 (ポリウレタン系)
Ⓘ	バルコニー手摺	ステンレスパイプ SUS304 (フッ素樹脂塗) 仕上	ケレン (RB種) 下地調整材塗 (広範囲適用型弱溶剤特殊エポキシシーラー) 錆止め塗料 上塗り塗料 (フッ素樹脂塗)
Ⓙ	庇、花台	合板型枠コンクリート打放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付 ジュラック	既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 (既存の仕上形状に合わせる)
	道具	アルミサッシ：B.L認定商品、アルマイト仕上 見込70 スチール：B.L認定商品、O.P仕上 見込80	上塗り塗料 (フッ素樹脂塗) アルミサッシ自体はそのまま 既存シーリング撤去後、シーリング打ち替え

部品仕様

		改修前	改修後
	部品名	取付場所	
Ⓐ	住棟標示	外壁	樹脂製360×360 そのまま
Ⓘ	雨水堅種	外壁	塩ビ管 75A (カラーパイプ) 継受金物：ステンレス製 #1500 そのまま
Ⓚ	軒樋・集水器	瓦屋根軒先	半丸105 (カラー) 受け金具：正面打タイプ ステンレス製 #500 そのまま
Ⓔ	中継ドレーン →平面図による	バルコニー	鉄鉄製 75A (塗膜防水用→打込型)
	手摺 1~4	バルコニー	コンクリート：アクリル共重合樹脂水性仕上位材吹付 ステンレスパイプ SUS304 フッ素樹脂仕上げ 図示による コンクリート 既存仕上げ面水洗い、劣化部補修、下地調整 (C-1) のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材
Ⓐ	手摺 1		コンクリート部分H1210、パイプ部分：H190 ステンレスパイプ ケレン (RB種) 下地調整材塗 (広範囲適用型弱溶剤特殊エポキシシーラー) 錆止め塗料 上塗り塗料 (フッ素樹脂塗)
Ⓐ	手摺 2		コンクリート部分H 290、パイプ部分：H1110 (R120)
Ⓐ	手摺 3		コンクリート部分H530、パイプ部分：H870
Ⓐ	手摺 4		コンクリート部分H1210、パイプ部分：H190 (R120)
Ⓐ	物干金物	バルコニー軒裏 (2F)	可動アルミダイキャスト (軒天取付) 図示による そのまま
Ⓐ	内側手摺	3棟-Eタイプ外部スロープ	コンクリート部分H120~520、パイプ部分：H730 コンクリート：手摺1~4のコンクリートに準ずる ステンレスパイプ：手摺1~4に準ずる
Ⓐ	外側手摺	3棟-Eタイプ外部スロープ	コンクリート部分H610~930、パイプ部分：H120
Ⓐ	エアコン室外機	外壁周囲	既設エアコン室外機 【再取付】 (全戸合計36台想定)



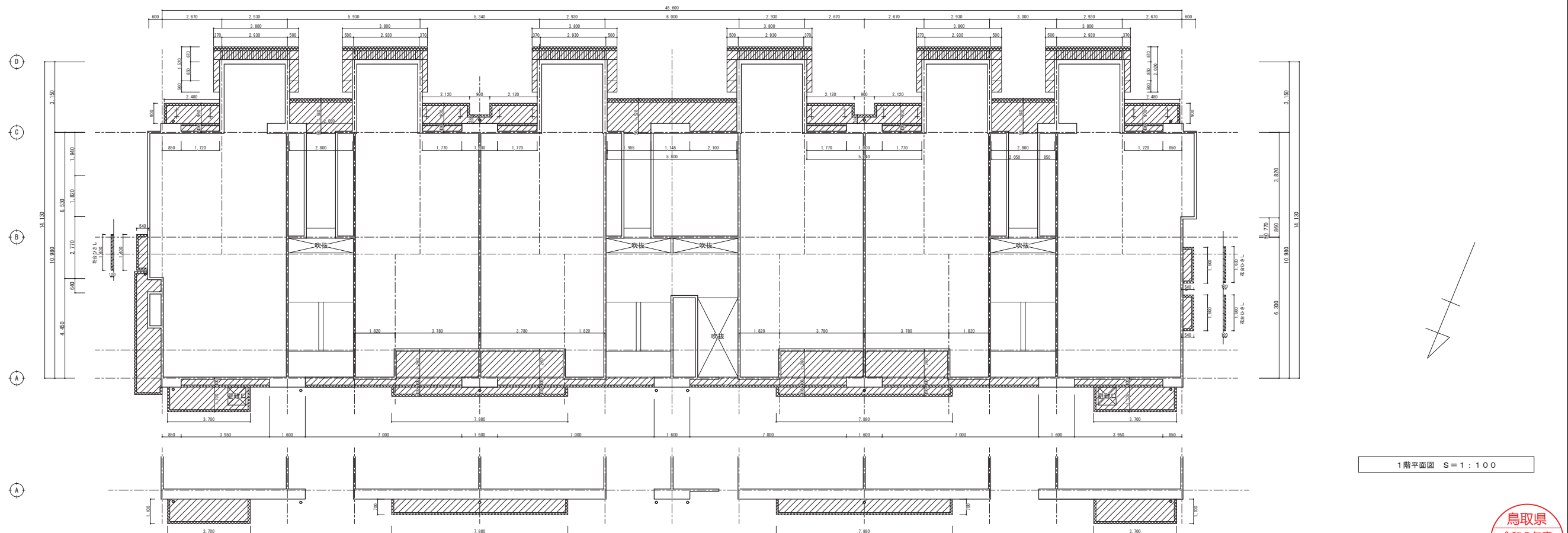
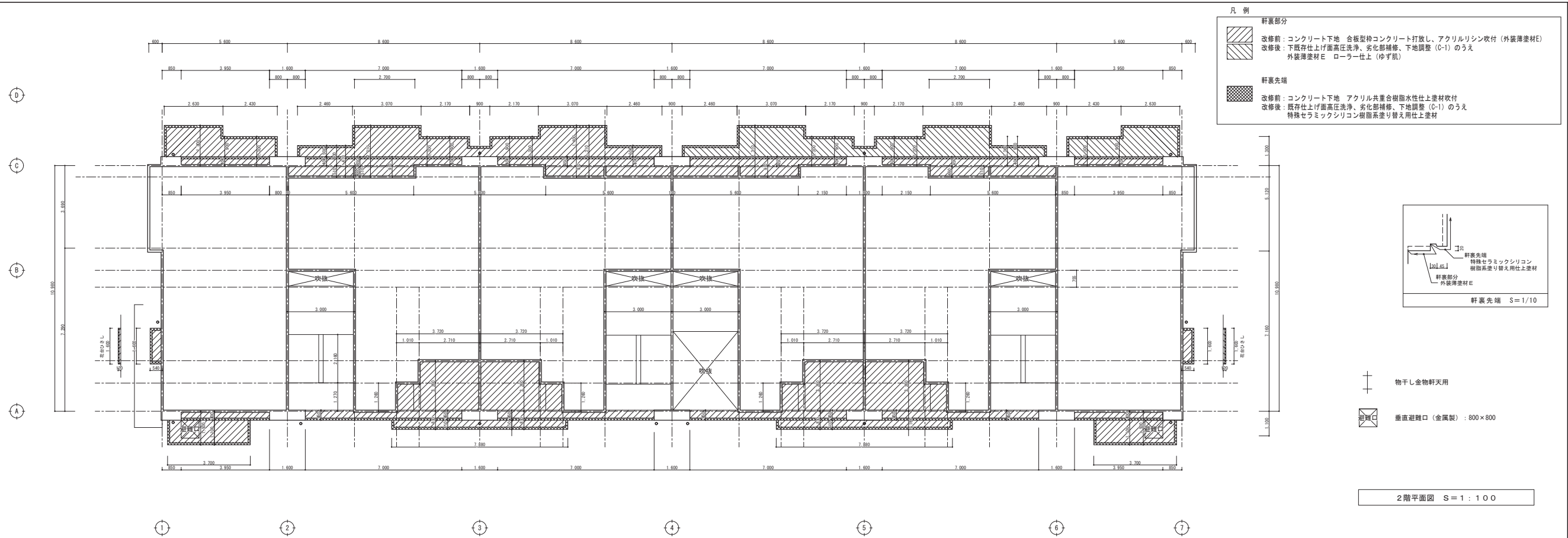
県営住宅弥生団地 1 棟外壁屋根断熱改修工事			
立面図 2 (南側・東側) 改修指示図		縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室		代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1274号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293658号		白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号	
			A-11



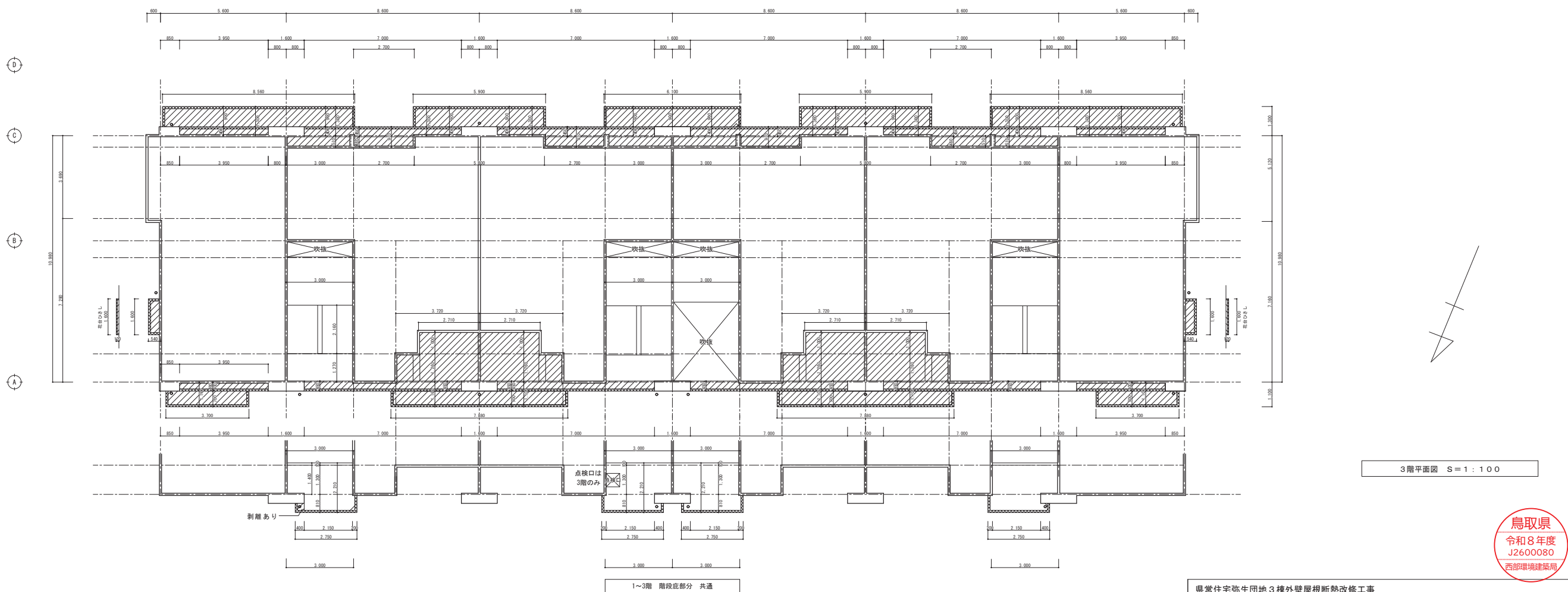
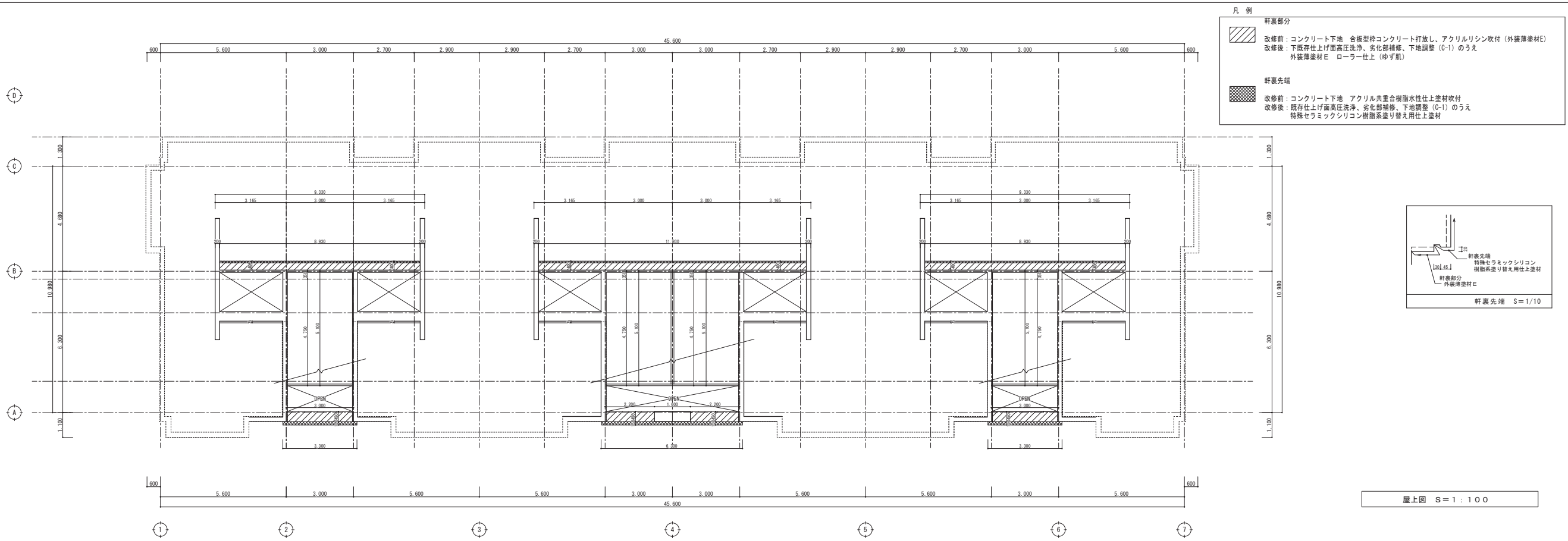
—— 改修範囲

県営住宅弥生団地 1 棟外壁ほか改修工事			
断面図		縮尺	図面番号
株式会社 しらいし設計室		1/100	A-12
代表となる設計者		その他の設計者	
一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 白石 博樹 管理建築士 一級建築士登録番号 第293659号		白石 博樹 一級建築士 登録番号 第354034号	



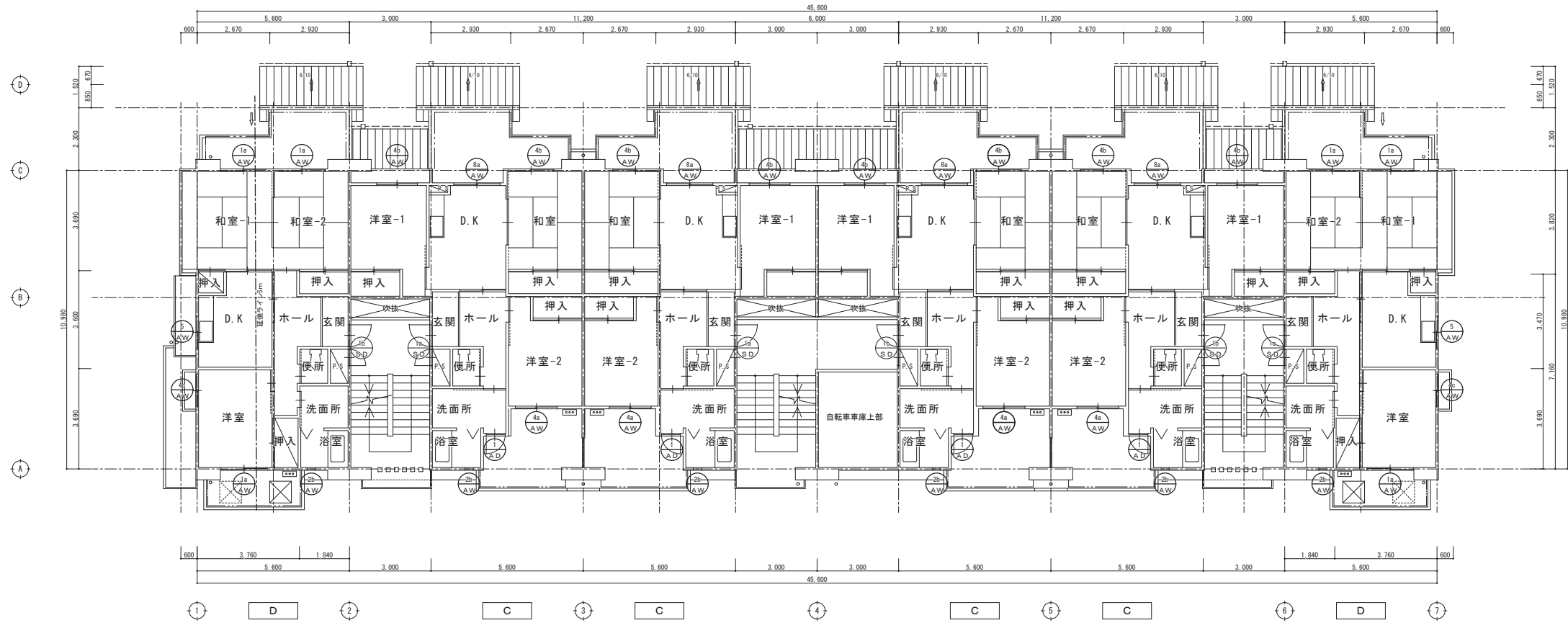


県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
天井伏図（1・2階）		縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室 一般建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293658号	代表となる設計者	その他の設計者	A-13
	白石 博昭 登録番号 第354034号		

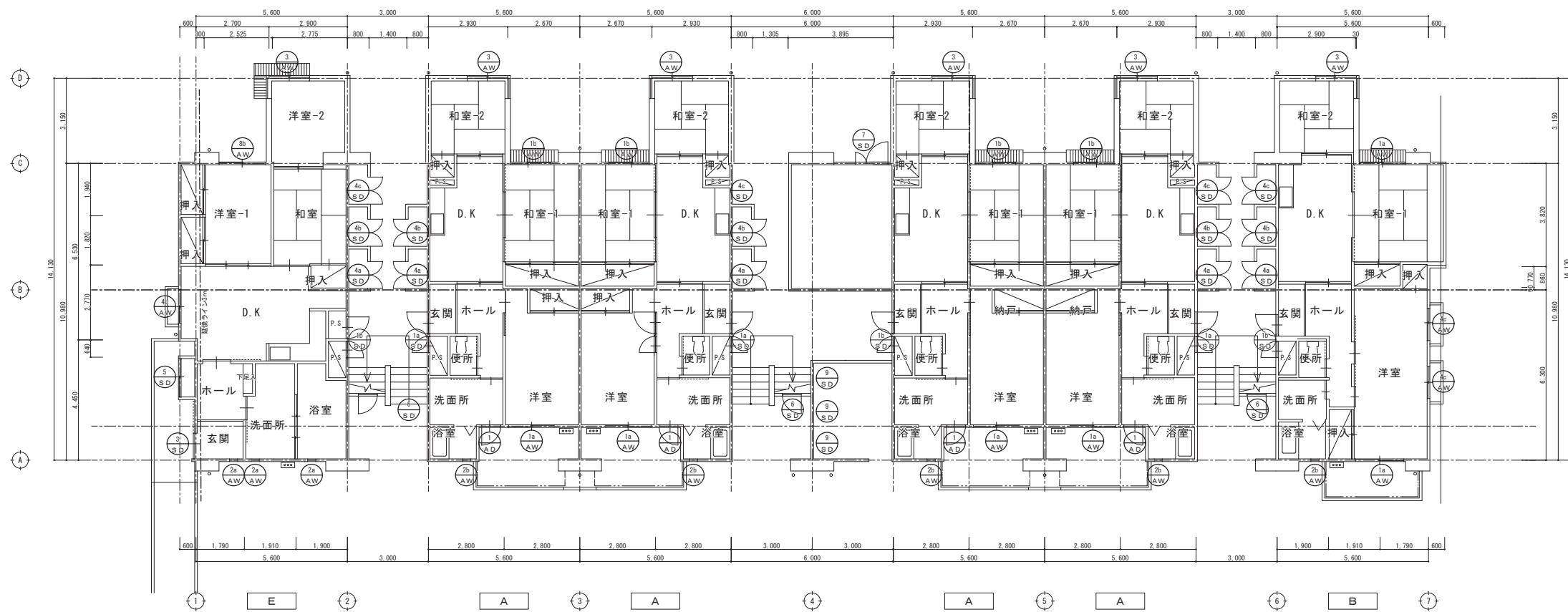


県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
天井伏図（3階・屋上）		縮尺 1/100	図面番号 A-14
株式会社 しらいし設計室	代表となる設計者	その他の設計者	
一般建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293658号	白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号		





2階平面図 S=1:100

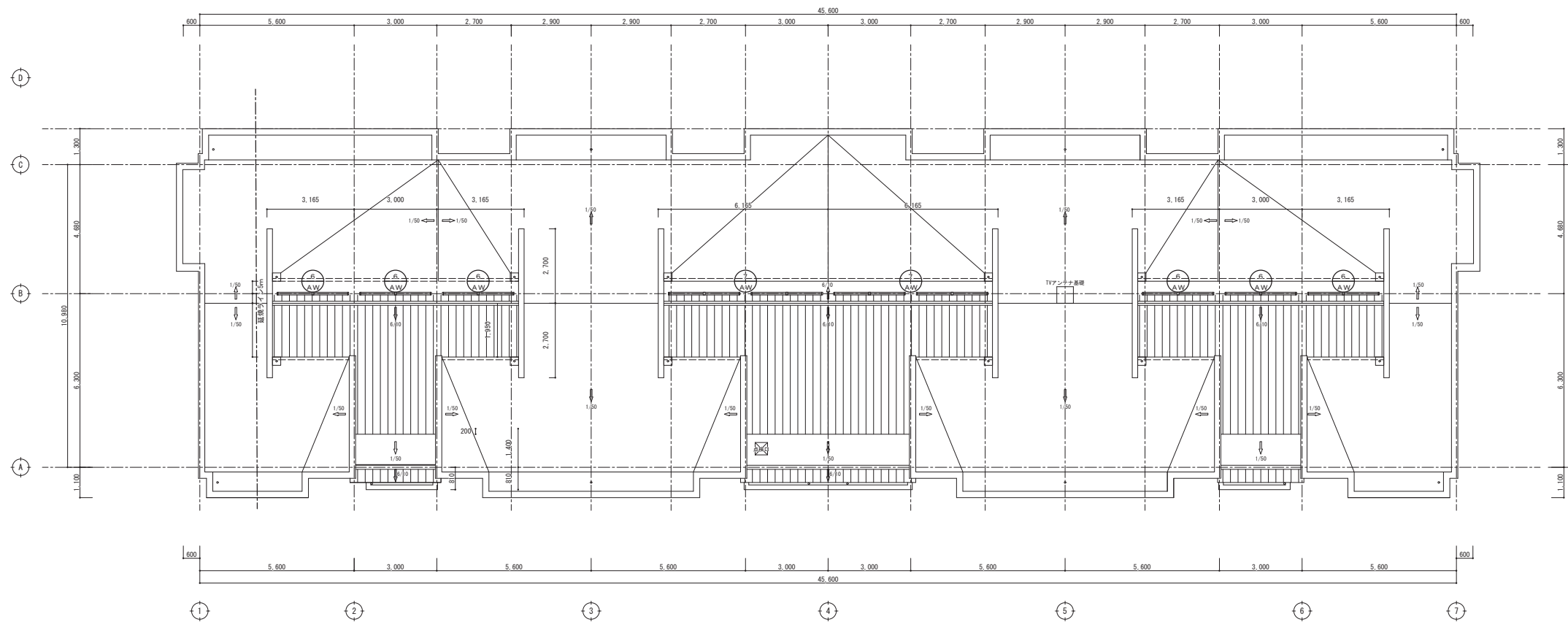


1階平面図 S=1:100

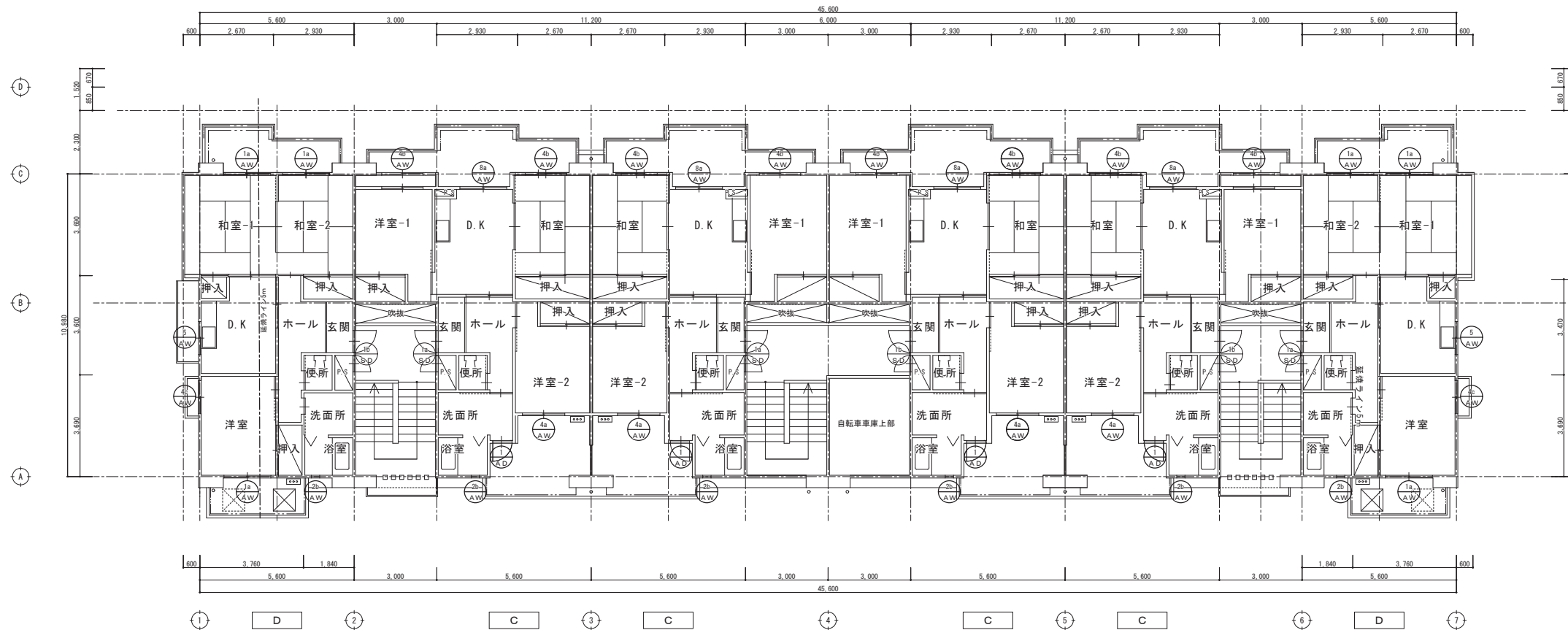
鳥取県
令和8年度
J2600080
西部環境建築局

県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事		
建具キープラン (1・2階)	縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室	代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293659号	白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号	

A-15



屋根伏図 S=1:100

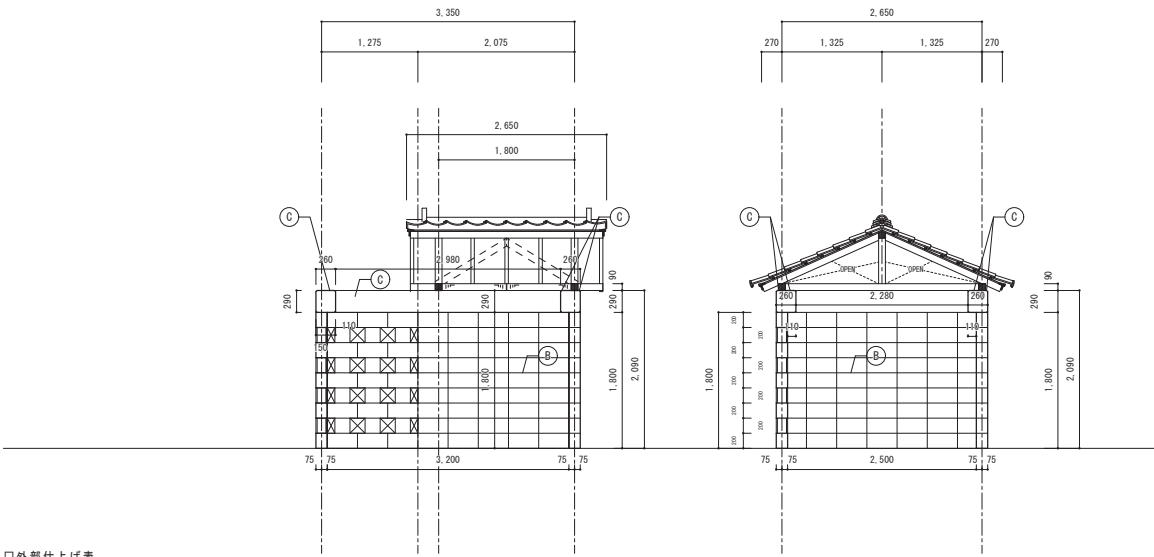
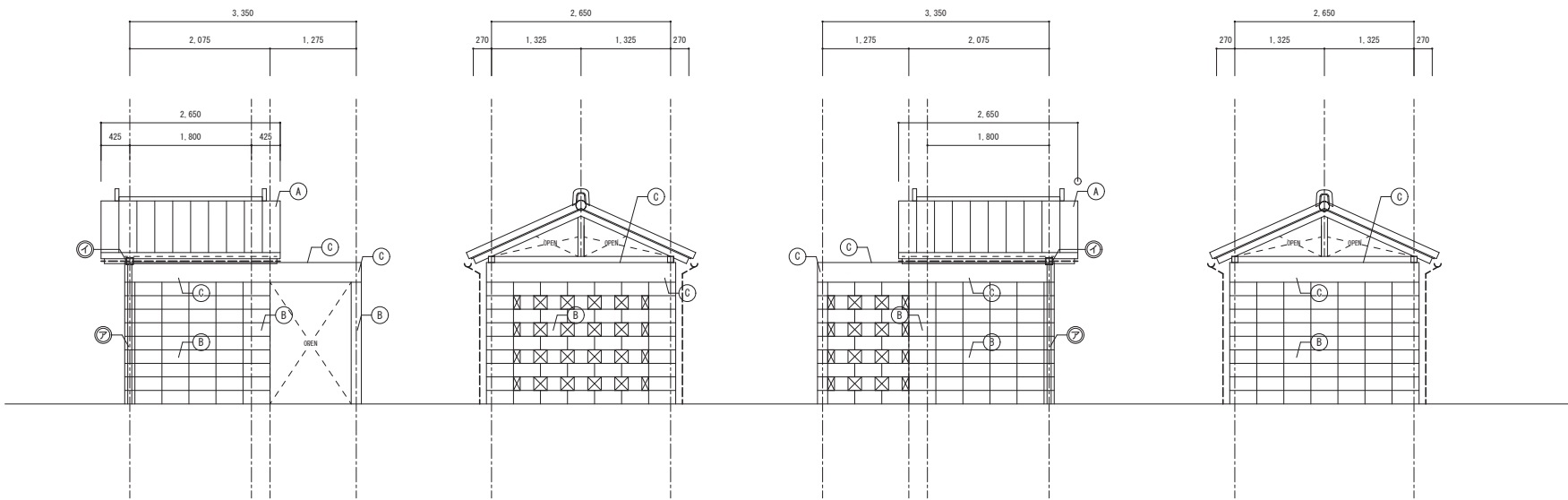
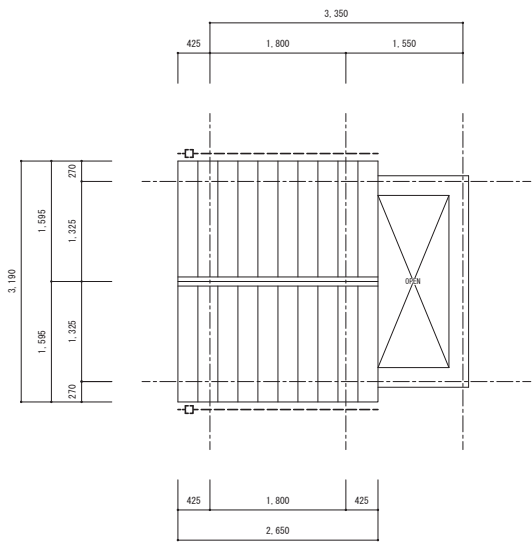
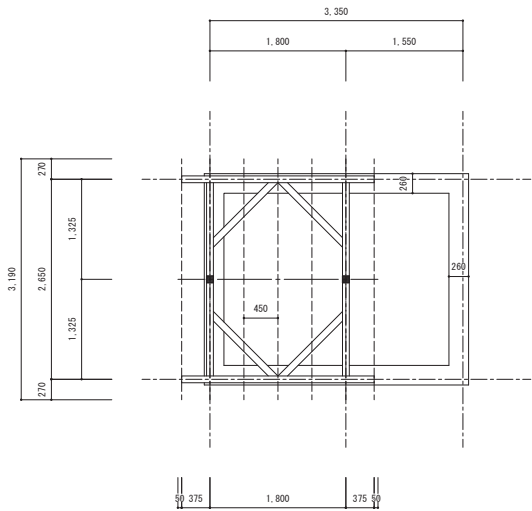
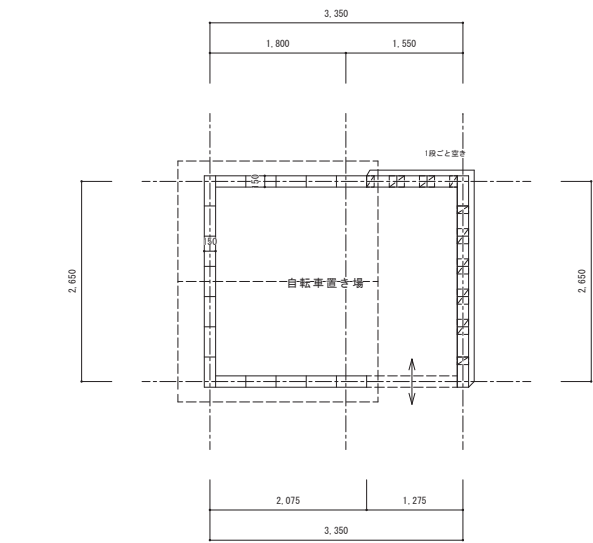


3階平面図 S=1:100



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事		
建具キープラン (3階・屋上)	縮尺 1/100	図面番号
株式会社 しらいし設計室	代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293659号	白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号	

符号・数量	AW-6	AW-7	AW-8a	AW-8b		WD-12
	▽ FL 玄関・ホール：木製縦線用アングル付 階段：アルミ製縦線用	▽ FL				今回工事該当外
形 式	はめ殺し窓	同左	1700×1800+無目45+横間a560、b600	1700×1800+無目45+横間a560、b600		1200×300（FL+1290）
室 名	玄関、ホール、階段室	階段室	ランマ付引き違い窓	ランマ付引き違い窓		両引きハンガー框戸
材 料	アルミ、網入りガラスt=6.8（型板）	同左	DK	洋室-1		ゴミ置き場
仕 上	アルマイトCL、見込み70	同左	アルミ、フロートガラスt=3、上部ランマ共	アルミ、フロートガラスt=3、上部ランマ共		ハンガーレール（ステンレス）、扉：杉
金 物	アルミ水切り、付属金物一式	同左	アルミ水切り、クレセント	アルミ水切り、クレセント		オイルステア
備 考	BL製品、結露受け	同左	同左	同左		吊戸車／振れ止め、引手（内側のみ固定）
			下部：強化型板ガラスt=4	下部：強化型板ガラスt=4		ステンレス引戸用金物一式
						パンガードア

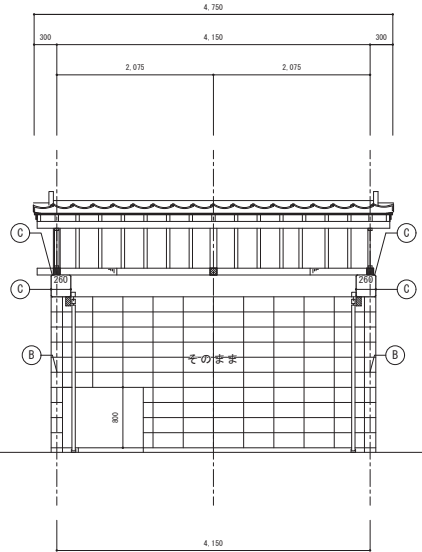
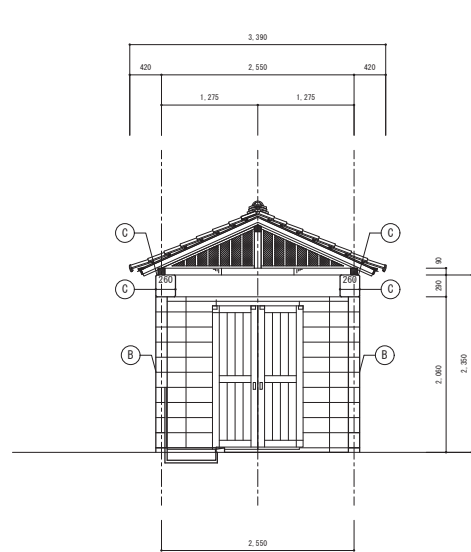
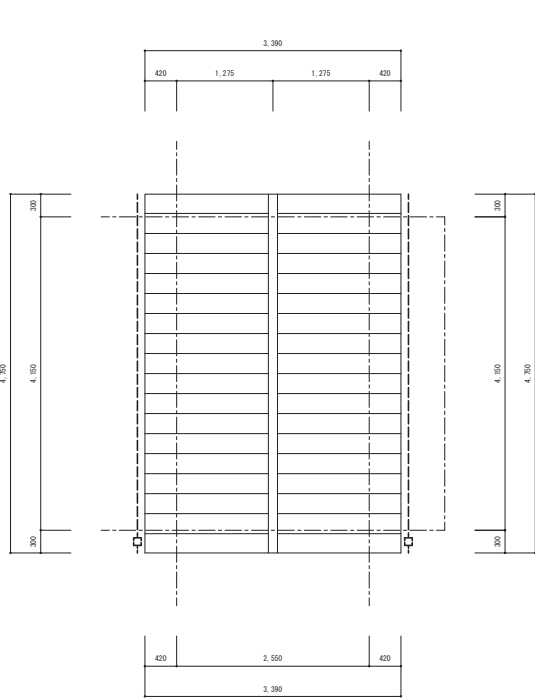
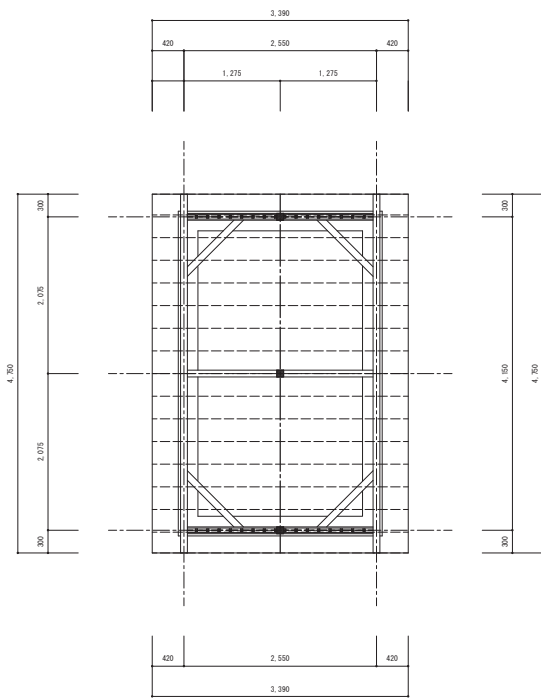
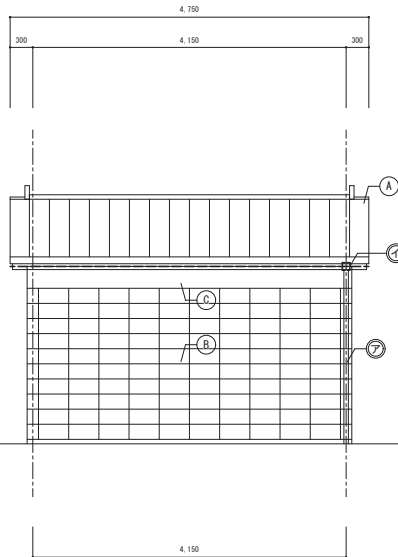
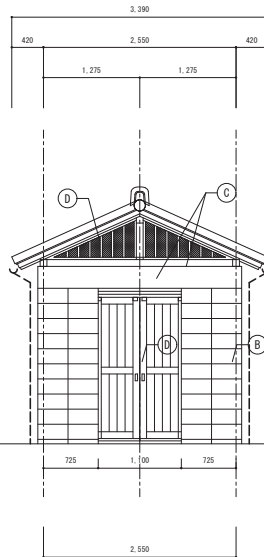
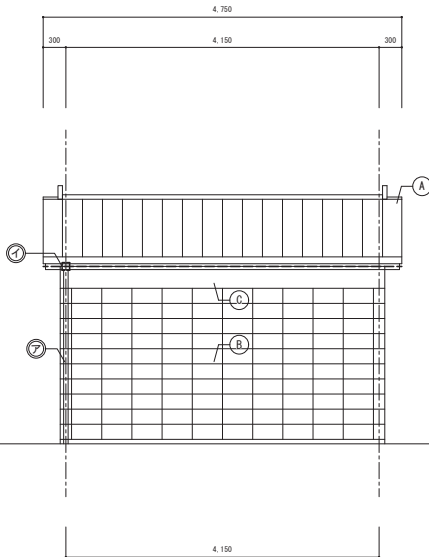
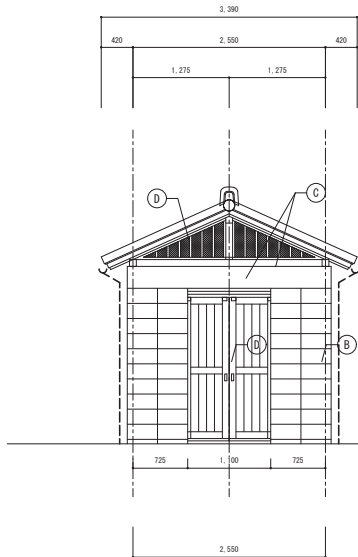
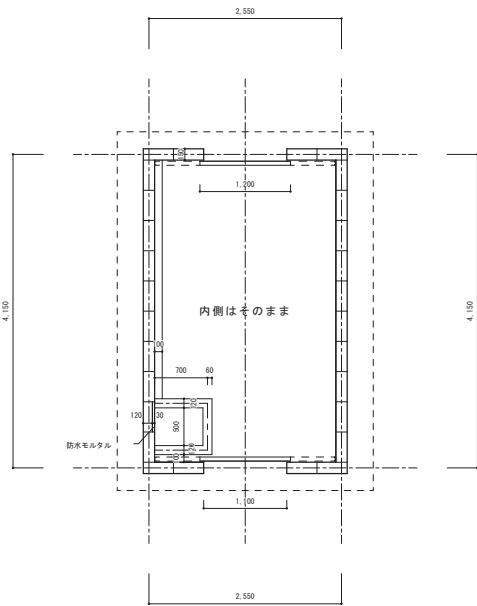


□ 外壁仕上げ表		
No.	改修前 仕様	改修後 仕様
Ⓐ	屋根 機瓦和型53A形 コンクリートの上パーライトモルタル t=40金ゴテ アスファルトルーフィング22kg、瓦棧 20×30、縦桟 5×51（防蟻処理）	そのまま
Ⓑ	外壁 壁：（内外共）CB150積み、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付仕上 外側：弾性ロック 、 内側：ジュラク	既存仕上り面水洗い、劣化部補修、下地調整（C-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗り替え用仕上塗材 （既存の仕上り形状に合わせること）
Ⓒ	梁型・梁型天端 壁：合板コンクリート打ち放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付仕上 梁型（外側）・天端：弾性ロック 、 内側：ジュラク	
	屋根木部 広小舞・破風板・鼻隠し・登り淀 木部：○S塗	そのまま
	天井組 小屋組現し（野地板、化粧材（野地板・横木・母屋・梁桁・垂木・火打・雲筋交い） 木部：○S塗	

部品仕様			
		改修前	改修後
部品名	取付場所		
㉞ 雨水樋	外壁	塩ビ管 75A（カラーパイプ） 樋受金物：ステンレス製 #1500	そのまま
㉟ 軒樋・集水器	瓦屋根軒先	半丸105（カラー） 受け金具：正面打タイプ ステンレス製 #500	そのまま



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
自転車置き場		縮尺 1/50	図面番号
株式会社 しらいし設計室		代表となる設計者	A-18
一級建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1274号 管理建築士 白石 博昭 一級建築士登録番号 第293658号		その他の設計者 白石 博昭 一級建築士 登録番号 第354034号	

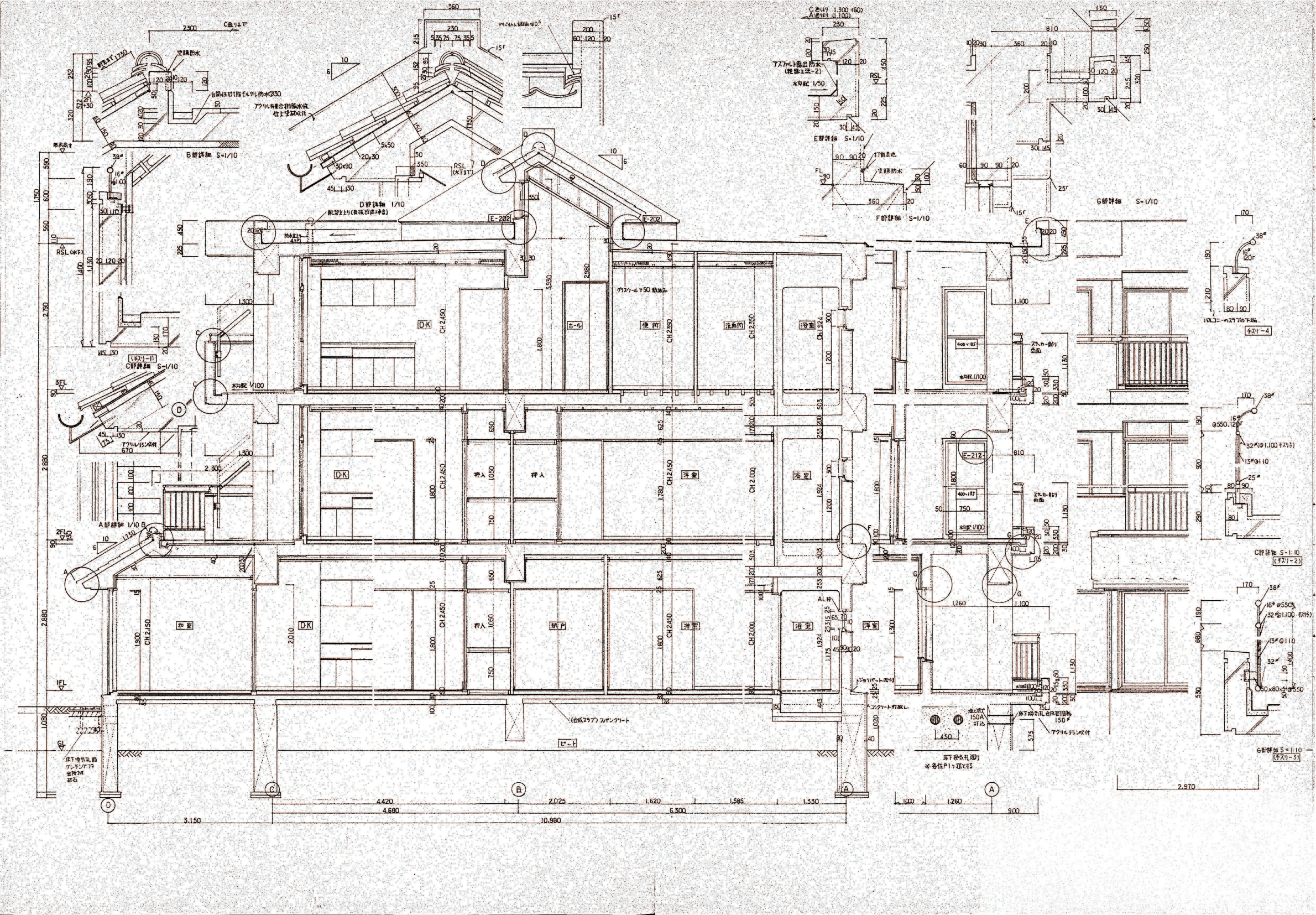


□ 外観仕上げ表		
No.	部位	仕様
①	屋根	機瓦和型53A形 コンクリートの上パーライトモルタル t=40金ゴテ アスファルトルーフィング22kg、瓦棧 20×30、縦桟 5×51（防蟻処理）
②	外壁	壁：（内外共）CB150積み、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付仕上 外側：弾性ロック 、 内側：ジュラク
③	築型天端	壁：合板コンクリート打ち放し、アクリル共重合樹脂水性仕上塗材吹付仕上 弾性ロック
④	漁具	木製框戸 形状は建具表参照
	屋根木部	広小舞・破風板・鼻隠し・登り淀 木部：○S塗
	天井組	小屋組現し（野地板、化粧材（野地板・横木・母屋・梁桁・垂木・火打・雲筋交い） 木部：○S塗

部品仕様			
		改修前	改修後
部品名	取付場所		
⑤ 雨水樋	外壁	塩ビ管 75A（カラーパイプ） 継ぎ金物：ステンレス製 #1500	そのまま
⑥ 軒樋・集水器	瓦屋根軒先	半丸105（カラー） 受け金具：正面打タイプ ステンレス製 #500	そのまま

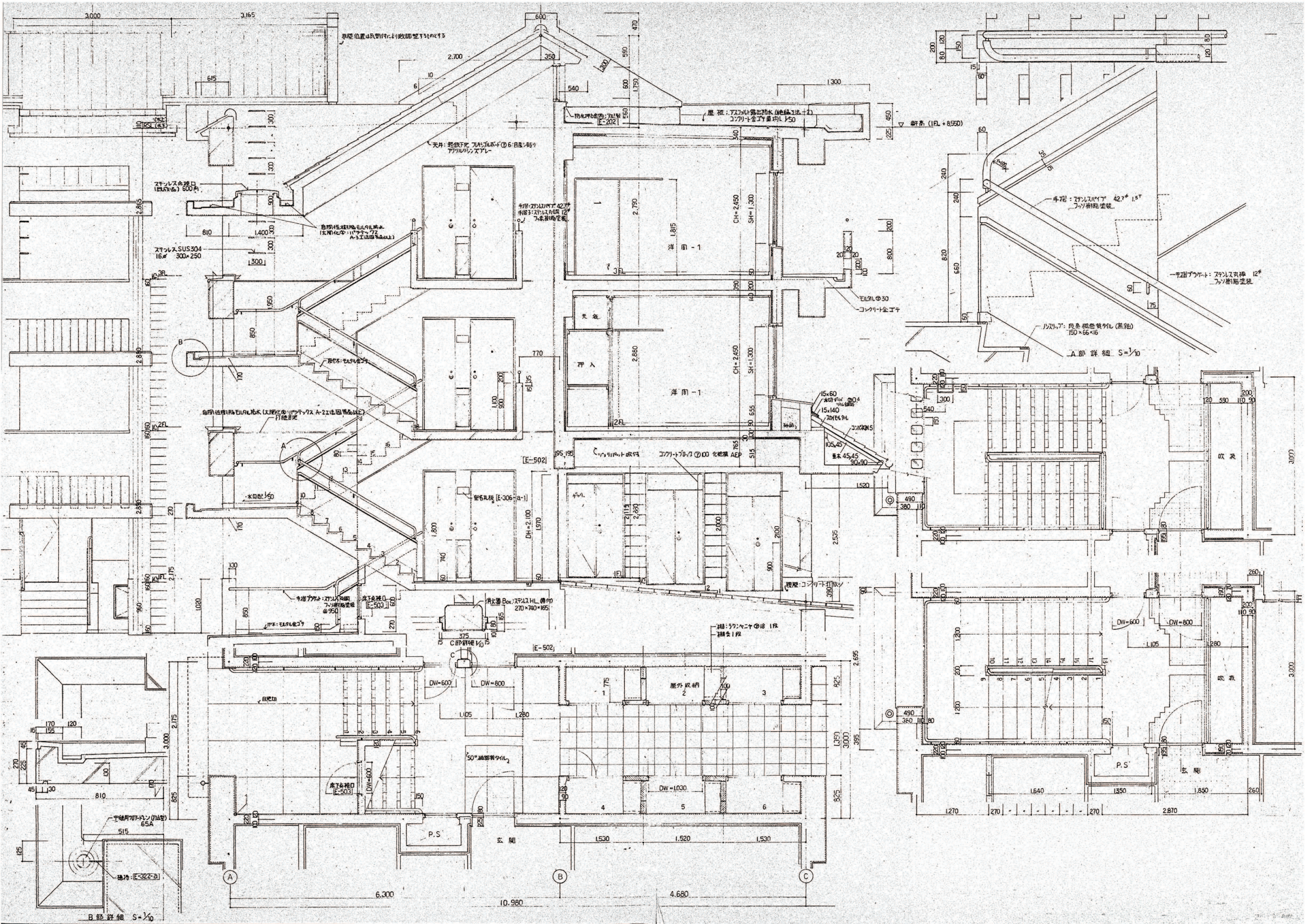


県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事			
ゴミ置き場		縮尺 1/50	図面番号
株式会社 しらいし設計室		代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博昭 一般建築士登録番号 第293658号		白石 博昭 一般建築士 登録番号 第354034号	
			A-19



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事		
断面詳細図 1	縮尺 1/40	図面番号
株式会社 しらいし設計室	代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県知事登録 第09-1279号 管理建築士 白石 博明 一般建築士登録番号 第293658号	白石 博明 一般建築士 登録番号 第354034号	

A-20



県営住宅弥生団地3棟外壁屋根断熱改修工事		
断面詳細図 2	縮尺 1/40	図面番号
株式会社 しらいし設計室	代表となる設計者	その他の設計者
一般建築士事務所 鳥取県和歌山県 第09-1279号 管理建築士 白石 博樹 一般建築士登録番号 第293659号	白石 博樹 一般建築士 登録番号 第354034号	

【改修前】



【改修前】



TVアンテナ基礎詳細図（階段室屋根部分） S=1/10



亀裂部補修 S=1/10



コンクリート欠損、鉄筋露出部補修 S=1/10



改修後】



手摺	
手摺 1	手摺 2
Handrail 1 details: 190, 680, 170, 80, 90, 160, 190, 32φ, 32φ@1100, 32φ@110, 910, 立ち上がり面 ジョリバット吹付, 手摺受: ステンレス50×80×5@550, 側溝: 防水モルタル, ※バルコニー仕上げ, 立ち上がり面 ジョリバット吹付, バルコニー軒天: リシン吹付, 45, 30, 20, 120, 100, 50, 30, 20, 120, 170, 190, 160, 38φ, 16φ@550, 120R, 笠木	Handrail 2 details: 190, 1,400, 170, 30, 50, 20, 60, 20, 20, 60, 20, 20, 80, 80, 100, 30, 100, 20, 120, 170, 190, 160, 38φ, 16φ@550, 120R, 笠木
手摺 3	手摺 4
Handrail 3 details: 190, 1,400, 170, 30, 50, 20, 60, 20, 20, 60, 20, 20, 80, 80, 100, 30, 100, 20, 120, 170, 190, 160, 38φ, 16φ@550, 120R, 笠木	Handrail 4 details: 190, 1,400, 170, 30, 50, 20, 60, 20, 20, 60, 20, 20, 80, 80, 100, 30, 100, 20, 120, 170, 190, 160, 38φ, 16φ@550, 120R, 笠木

スロープ手摺

スロープ手摺：外側	スロープ手摺：内側
手摺ステンレスパイプSUS304 フッ素樹脂仕上げ 120R_φ16@550 φ38 コンクリート打ち放し ジョリパッド吹付同等品 730 850 120 120	φ32@1100手摺子 φ13@110 φ38 φ16@550 φ25 コンクリート打ち放し 730 850 120 150 430 150

部 位		改 修 前	改 修 後
1	笠木	アクリル共集合樹脂水性仕上壁吹付材 (ジョリパッド吹付同等品)	既存仕上り面水洗い、劣化部補修、下地調整（G-1）のうえ 特殊セラミックシリコン樹脂系塗リ替え用仕上塗材
2	立ち上がり（内外共）	アクリル共集合樹脂水性仕上壁吹付材	
3	側溝（立ち上がり・側溝面共）	防水モルタル	
	※バルコニー床仕上げ		
4	-1 下部居室あり	塗膜防水：自閉性樹脂モルタル防水	既存仕上り面水洗い、劣化部補修、下地調整（G-1）のうえ ウレタン塗膜防水（X-2）密着工法【新設】
	-2 下部居室なし	コンクリート金コテ	
5	手摺（ヨコ・手摺子共）	ステンレスパイプSUS304・フッ素樹脂仕上	
6	収縮目地：20×20		ケレン（R8種） 下地調整材塗（広範囲適用型弱溶剤特殊エポキシシーラー） 錆止め塗料 上塗り塗料（フッ素樹脂塗） シーリングにて目地埋め